

大阪公立大学大学院看護学研究科

看護実践研究センター年報

第4巻

2025年度



Nursing Practice and Research Center
Annual Report No.4 , 2025



目次

I. 看護実践研究センター部門報告

センターの目的と事業内容	P. 1	簗持 知恵子 (看護実践研究センター運営委員会委員長)
1. 看護生涯学習支援部門			
(1) 看護職のための教育実践セミナー	P. 3	勝山 愛
(2) キャンプナース® 育成およびネットワークの構築	P. 9	宮下 佳代子
(3) 地域包括支援センター看護職のネットワークの構築 ～交流会・コンサルテーションの開催～	P. 15	岡野 明美
(4) 看護師対象の基礎から学ぶ看護研究セミナー (基礎編・継続編)	P. 22	細名 水生
(5) 思春期にある子どもへの包括的セクシュアリティ 教育実践者の育成	P. 28	古山 美穂
(6) 精神医療を支える看護職に向けたオンラインセミナー の企画・運営	P. 34	河野 あゆみ (精神行動ケア科学)
(7) 家族への看護を考える会：家族看護フォーラム	P. 38	井上 敦子
2. 府民健康支援部門「まいど！ウェルネスリンクあべの」			
(1) 金塚地区タウンミーティング	P. 44	田中 健太郎
(2) 阿倍野区金塚地区における健康教室	P. 50	和木 明日香
(3) 羽曳野地区健康教室 となりの保健室	P. 59	篠原 真咲
3. 国際・国内学術研究推進部門	P. 65	園田 奈央

II. 看護実践研究センター運営委員会活動

1. 広報活動	P. 67	藤田 寿一 清水 彩 篠原 真咲 宮下 佳代子
2. 会計報告	P. 68	田中 健太郎 根来 佐由美

III. CNSネットワーク活動

大阪公立大学大学院看護学研究科	P. 74	
大阪公立大学大学院看護学研究科 看護実践研究センター規定 (規定第116号)			
大阪公立大学大学院看護学研究科 看護実践研究センター運営委員会規定 (規定第23号)			

編集後記	P. 78	小西 円 古山 美穂
------	-------	-------	---------------

看護実践研究センター

センター長 田中 京子

看護実践研究センター運営委員会

委員長 簾持 知恵子

■ 看護生涯学習支援部門

主任 佐竹 陽子
委員 小西 円
根来 佐由美
宮下 佳代子

■ CNSネットワーク活動

責任者 三輪 恭子
委員 富川 順子
井上 敦子
徳岡 良恵
中村 雅美

■ 府民健康支援部門

主任 和木 明日香
委員 田中 健太郎
古山 美穂
篠原 真咲

■ 国際・国内学術研究推進部門

主任 園田 奈央
委員 清水 彩
藤田 寿一

I. 看護実践研究センター部門報告

センターの目的と事業内容

1. 看護生涯学習支援部門

- (1) 看護職のための教育実践セミナー
- (2) キャンプナース®育成およびネットワークの構築
- (3) 地域包括支援センター看護職のネットワークの構築
～交流会・コンサルテーションの開催～
- (4) 看護師対象の基礎から学ぶ看護研究セミナー
(基礎編・継続編)
- (5) 思春期にある子どもへの包括的セクシュアリティ
教育実践者の育成
- (6) 精神医療を支える看護職に向けたオンラインセミナー
の企画・運営
- (7) 家族への看護を考える会：家族看護フォーラム

2. 府民健康支援部門「まいど！ウェルネスリンクあべの」

- (1) 金塚地区タウンミーティング
- (2) 阿倍野区金塚地区における健康教室
- (3) 羽曳野地区健康教室 となりの保健室

3. 国際・国内学術研究推進部門

センターの目的と事業内容

看護実践研究センターは、本学設立の重点目標である高度研究型大学の実現、高度人材育成、都市問題の解決を通して大阪府発展への貢献すること、地元創成を目指して、府民が抱える健康課題の解決に向けた研究、人材育成および質の高い看護実践を推進することを目的としています。

本センターは産学民官と連携し、「共に創造する」という大阪公立大学の目標を健康という観点から実現するための事業を推進するための看護学研究科の拠点の一つとなっています。センターにおける事業を通して、大阪府の看護の発展および地域住民の健康と生活の質向上に寄与するとともに、保健医療福祉における看護・ケアの未来を見据えた国際的学術拠点としての基盤形成のための研究・活動を推進しています。

本年度は特にこれまでの活動を継続しながらも新たな活動に発展させるための基盤づくりとなる活動を行いました。

本センター以下の3つの部門から構成され、各部門がそれぞれの役割に基づき事業を展開しています。

看護生涯学習支援部門

- ・看護職及び保健医療福祉関係者の人材育成に資する事業助成
- ・看護職及び関連職種との協働連携拠点となるネットワーク構築プロジェクト活動の推進

府民健康支援部門

- ・地域住民や保健医療福祉の従事者とのネットワーク構築プロジェクト事業の推進
- ・地域住民の健康増進、疾病・介護予防、療養管理に関わるヘルスリテラシーの醸成を目的とした府民健康教育・支援プロジェクトの実施

国際・国内学術研究推進部門

- ・国際共同研究や学際研究を行うための教員の能力開発支援
- ・国際的な共同研究推進プロジェクトの国際的学術拠点機能の発揮を見据え、国内外の大学、医療機関、保健・福祉施設等との共同研究体制の基盤整備の推進

看護職のための教育実践セミナー

看護教育学分野：勝山 愛、細田 泰子、水引 智央

I. 活動目的

本活動は、看護職者を対象とした講座を実施し、看護教育に関する基本的な理論に基づいて継続教育における実践方法について考える機会を提供することを目的とする。活動を通して看護継続教育の質の確保における社会貢献ができるようになる。

II. 活動内容

1. 受講者

1) 受講対象者

近畿圏内の医療施設に所属する看護職者

2) 募集方法

以下の2つの方法で受講希望者を募った。

a. 近畿圏内の200床以上の医療施設から230施設を選択し、看護部長宛てにセミナー案内状とチラシを送付した。

b. 看護実践研究センターのリーフレット送付時にセミナー案内状とチラシを同封した。

3) 募集人数

各講座30名程度とし先着順とした。

2. セミナーの方法

1) 講座の方法

対面で講義やグループワークを行った。場所は大阪公立大学阿倍野キャンパスで開催した。

2) 講座内容

1回2時間の講座を3回実施した。本学看護教育学教員で実施し、本学教員が作成した講義資料を教材として使用した。講座内容については表1に示す。

表1 看護職のための継続教育実践講座の内容

回	日時	内容	講師
第1回	10月15日(水) 15:00~17:00	現場で役立つ! いまどきの看護職への 関わり方と多重課題への支援	水引 智央
第2回	11月19日(水) 15:00~17:00	臨床判断能力育成の最前線! 臨床判断モデルとルーブリックの活用	細田 泰子
第3回	12月22日(月) 15:00~17:00	“やらされ感”から“自分ごと”へ 成人学習理論で変わる教え方、学び方	勝山 愛

3) 講座評価

講座終了時には受講者に講座アンケート(所要時間約5-10分)の実施にご協力いただいた。

明日から使ってみたくなる!

看護職のための教育実践セミナー

1講座～申込OK! 講師は大阪公立大学看護教育学分野の教員が務めます。講座内容の詳細は裏面をご覧ください。

2025年度 プログラム		参加費 500円
第1回	10月15日(水) 15:00-17:00 『現場で役立つ! いまどきの看護職への関わり方と多重課題への支援』 講師: 水引 智央 申込締切 10月6日(月)	対象 近畿圏内の医療施設に所属する看護職の方 定員 各回先着20名(予約申込) *定員になり次第、締め切らせていただきます。 *申込完了通知は登録いただいたメールにお知らせします。
第2回	11月19日(水) 15:00-17:00 『臨床判断能力育成の最前線! 臨床判断モデルとルーブリックの活用』 講師: 細田 泰子 申込締切 11月10日(月)	場所 すべて同じ会場です 大阪公立大学 阿倍野キャンパス 看護学部学舎C棟 7階セミナー室 裏面の地図をご確認ください。
第3回	12月22日(月) 15:00-17:00 『“やらされ感”から“自分ごと”へ 成人学習理論で変わる教え方、学び方』 講師: 勝山 愛 申込締切 12月15日(月)	

お申込みお問合せ URLまたはQRコードからお申込みください
申込みURL: <https://www.omu.ac.jp/~katsuyama/>
【お問い合わせ先】大阪公立大学大学院看護学研究科看護教育学分野 勝山 愛 E-mail: katsuyama@omu.ac.jp

III. 活動状況

1. 受講申し込み者と当日受講者

第1回は、受講申し込み者33名で当日受講者は32名であった。第2回は申し込み者29名で当日受講者は26名、第3回は申し込み者32名で当日参加者は29名であった。

2. アンケート結果

1) 第1回「現場で役立つ！いまどきの看護職への関わり方と多重課題への支援」について

- ・ 受講者15名から回答が得られた。
- ・ 受講者の看護職経験年数は、5～14年3名(20%)、15～24年3名(20%)、25年以上9名(60%)であった。
- ・ 受講者の役職については、看護師長5名(33.3%)、副看護師長6名(40%)、看護主任2名(13.3%)、スタッフ2名(13.3%)であった。
- ・ 講座の内容については図1～3に示す。内容の理解については、とても良く理解できたが10名(66.7%)、理解できたが5名(33.3%)であった(図1)。教育実践に役立つかについては、とても役立つが9名(60%)、役立つが6名(40%)であった(図2)。満足度は、満足できたが10名(66.7%)、ほぼ満足できたが5名(33.3%)であった(図3)。

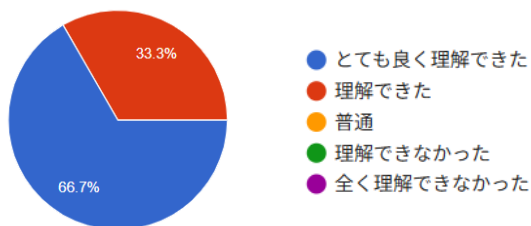


図1. 第1回内容理解

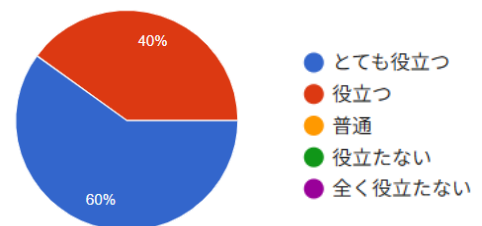


図2. 第1回有用性

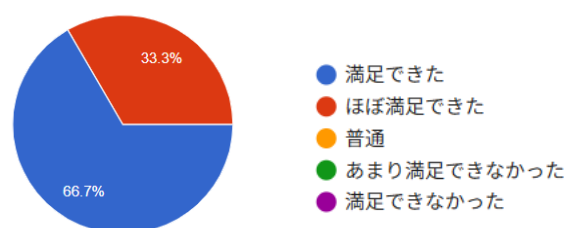


図3. 第1回満足度

2) 第2回「臨床判断能力育成の最前線！臨床判断モデルとルーブリックの活用」について

- ・ 受講者18名から回答が得られた。
- ・ 受講者の看護職経験年数は、5～14年2名(11.2%)、15～24年4名(22.2%)、25年以上12名(66.6%)であった。
- ・ 受講者の役職については、看護師長6名(33.3%)、副看護師長8名(44.4%)、看護主任1名(5.6%)、スタッフ3名(16.7%)であった。

- ・ 講座の内容については図4～6に示す。内容の理解については、とても良く理解できたが4名(22.2%)、理解できたが12名(66.7%)、普通が2名(11.1%)であった(図4)。継続教育の実践に役立つかについては、とても役立つが5名(27.8%)、役立つが9名(50%)、普通が4名(22.2%)であった(図5)。満足度は、満足できたが7名(38.9%)、ほぼ満足できたが9名(50%)、普通が1名(5.6%)、あまり満足できなかったが1名(5.6%)であった(図6)。

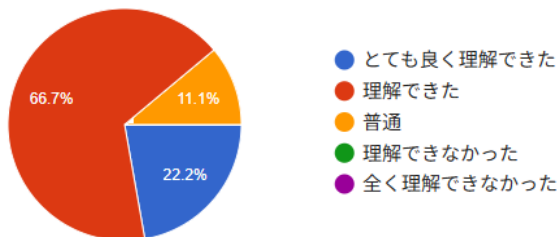


図4. 第2回内容理解

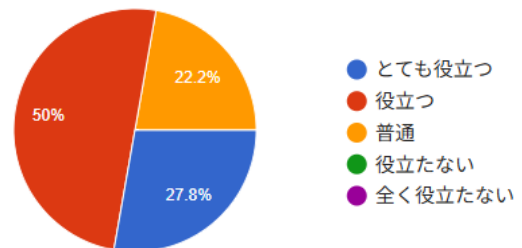


図5. 第2回有用性

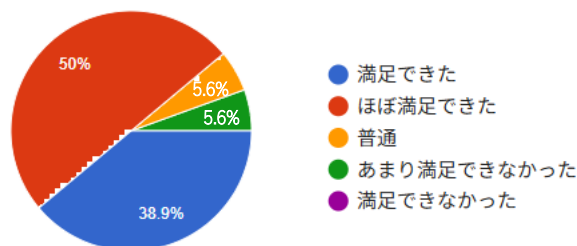


図6. 第2回満足度

- 3) 第3回「“やらされ感”から“自分ごと”へ成人学習理論で変わる教え方、学び方」について
- ・ 受講者24名から回答が得られた。
 - ・ 受講者の看護職経験年数は、5～14年4名(16.7%)、15～24年9名(37.5%)、25年以上11名(45.8%)であった。
 - ・ 受講者の役職については、看護師長7名(29.2%)、副看護師長6名(25%)、看護主任6名(25%)、スタッフ5名(20.8%)であった。
 - ・ 講座の内容については図7～9に示す。内容の理解については、とても良く理解できたが16名(66.7%)、理解できたが7名(29.2%)、普通1名(4.2%)であった(図7)。継続教育の実践に役立つかについては、とても役立つが15名(62.5%)、役立つが9名(37.5%)であった(図8)。満足度は、満足できたが18名(75%)、ほぼ満足できたが5名(20.8%)、あまり満足できなかったが1名(4.2%)であった(図9)。

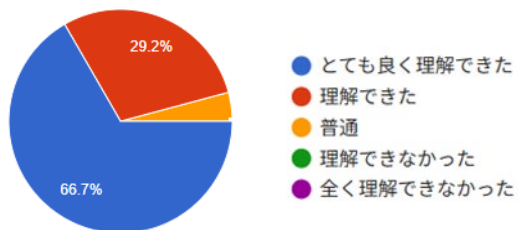


図 7. 第 3 回内容理解

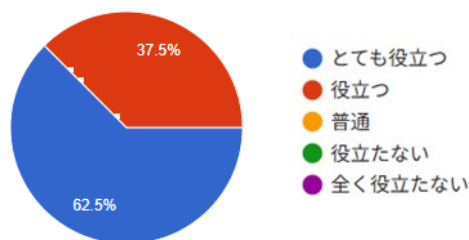


図 8. 第 3 回有用性

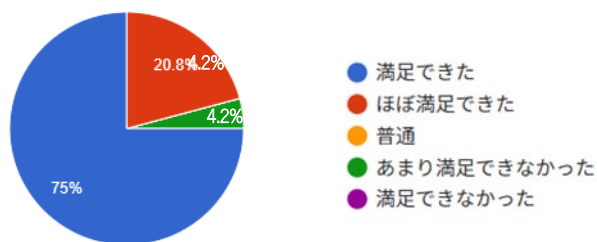


図 9. 第 3 回満足度

4) 自由記載について

教育実践での有用性については以下のような意見があった。

a. 第 1 回

- ・ 発問ということ意識して関わっていこうと思った。
- ・ 日々の後輩指導時に活かせる。
- ・ 発話思考、頑張ります！
- ・ 今回受けた講義を実験し困っていた事を解決し指導に繋げていきたい。
- ・ 新人だけではなく指導に役立つ。
- ・ 臨床判断の研修と新人教育委員会で活用させていただきたいです。
- ・ 新人、学生への声のかけ方、思考発話、発問を意識して接したいと思った。
- ・ 何を考えてるかわからない新人との関わりで気をつけることや思考発話や発問するときに相手の答えをまずは受け入れたり、リアクションをすることが活かせると感じた。
- ・ 思考発話について実地指導者対象研修に取り入れます。
- ・ 実際に新人や学生指導に悩んでいたため、とても有意義な時間となりました。
- ・ 新人期看護師の多重課題に関して、示されていた具体的内容を参考に、支援内容を考えていきたいと思いました。

b. 第 2 回

- ・ 次年度の教育計画立案時、参考にさせていただきます。
- ・ 研修内容に組み込みスタッフへ周知していきたい。
- ・ 臨床判断ルーブリックを参考に、具体的なルーブリックでの評価を活用させたいと思いました。
- ・ 職員全員に活かそうです。

- ・ ラダー評価とは違う評価視点なので、臨床判断能力の理解をする時に活かせそうです。
- ・ 新人以外のスタッフにも使いたい。
- ・ LCJR を活用し臨床判断能力を可視化したい。
- ・ スタッフの倫理推論能力の程度を判定していく必要があると思いました。
- ・ 実践での活用はなかなか難しいと感じました。

c. 第3回

- ・ 学習者に対しての向き合い方、学習計画の立て方に活かせる。
- ・ スタッフへの教育計画の立案、指導者への指導など、成人学習理論を理解したスタッフを育成していく。
- ・ 学習者が自ら学ぶ仕組みづくりを経験年数の若い時からすることで生涯学習につながると思った。
- ・ 次年度の教育計画に活かせそうです。
- ・ 教育者であることを自覚して、携わってくれるスタッフを増やすことが、教育の充実に繋がると感じました。
- ・ 新人指導、配転者指導などに役立つと思います。
- ・ 教育計画を学習者にたててもらうことは目からウロコだった。こちらが良かれと思ってやっていた事が学習者にとって負担になっていたり、学習者の持っている力を引き出せていなかったのかもしれないと思ったので、まずは今までの考え方を見直してみたい。
- ・ 新人教育だけではなく、院内で実施されているすべての教育に活用できる。
- ・ 主体的に教育に参加してもらうために、自分たちで考えてもらうことをやってもらう。
- ・ 学習計画、指導計画の立て方が非常に参考になりました。すぐ現場で活かしたいです。
- ・ 成人学習について学ぶことでどのように学習者と関わればよいか、教育者としての自覚について知ることができ、教育をする上で必要な考えだとわかった。
- ・ 新人の指導計画、1～3年での到達目標で活用できる。

IV. まとめ

1. 今年度の改善点

昨年度は本講座への申し込みが少なかったことを受け、その要因を検討し、今年度は以下の6点について改善を行った。

1) 講座名の変更

単回での参加が可能であることをより明確に示し、参加のハードルを下げることを目的として、講座名を「継続教育実践講座」から「教育実践セミナー」へ変更した。

2) 各セミナーのタイトルの変更

各セミナーのタイトルを見直し、内容の魅力がより伝わる表現へと改善した。例えば「成人学習理論の看護における活用」から「やらされ感から自分ごとへ—成人学習理論で変わる教え方・学び方」といった表現へ変更した。

3) セミナー詳細の明確化

セミナーの詳細情報をチラシ裏面に記載し、内容が具体的に伝わるよう改善した。

4) 対象者の拡大

より広範な参加者の確保を目的として、対象者を大阪府内の医療施設に所属する方から、近畿圏内の医療施設に所属する方へと拡大した。

5) チラシ配布方法の見直し

施設内での情報共有を促進するため、各施設へ送付するチラシを1施設あたり複数枚同封した。

6) 開始時間の変更

業務との両立を考慮し、参加しやすい時間帯への調整のため、開始時間を従来の13時から15時へ変更した。

3. 今後の展望

1) 募集について

本年度は募集開始後、短期間で20名の応募枠が埋まったため、定員を30名へ増員して対応した。その後、応募締切前に30名に達し、キャンセル待ちでの対応となった。また、今年度はリーフレットの配布および対象者を近畿圏内の医療施設に所属する方へ拡大し、講座内容もより現場で活用できる構成とした。その結果、申込者が多数となり、参加できなかったとの意見もあった。来年度も近畿圏内への周知を継続しつつ、希望者が参加できるよう可能な範囲で調整を行う予定である。

2) 開催時間および運営方法について

開始時間を15時に変更したことにより、「午後半日の有休で参加できた」との意見が寄せられた。研修時間についても、「2時間で要点を絞って学べた」との評価があり、開催時期に関する特段の意見はなかった。連続受講者の勤務調整も考慮し、今後も月1回、同様の時間帯で開催を継続する予定である。さらに、昨年度に引き続き実施したペアシェアについては、「他病院の方と看護実践を語ることができた」「同じ悩みを共有できた」といった肯定的な意見が多く寄せられた。また、コメントスクリーンの活用についても「意見が出しやすい」との評価があり、今後もこれらの方法を継続していく。

3) テーマについて

受講後のアンケートでは、3回の開催に共通して、「現場での教育に早速取り入れていきたい」「活用できそうである」との意見が多く見られた。理論的背景を基盤とした具体的な教育実践方法を検討する機会として、有意義であったことが示唆された。また、次年度の開催を希望する意見も多数あった。取り上げてほしいテーマとしては、中堅・ベテラン看護師の育成、病棟での有効なOJT計画、実践的な教育方法、学習者への動機づけ等が挙げられた。今後は受講者のニーズを踏まえながら内容を検討し、継続的な開催を目指す。

キャンプナース®育成およびネットワークの構築

宮下佳代子（子ども・家族ケア科学）

仲井あや（小児看護学）

村川園美（博士後期課程院生、小児看護専門看護師）

児玉善子（一般社団法人 看護教育支援協会）

I. 活動目的

地域での暮らしや教育・福祉の場で看護を提供する看護専門職者としてのキャンプナース®の育成とネットワークの構築を目的とする。キャンプナース®は、地域の行事やイベントにおいて健康管理を主とした運営に参画するとともに救急時の対応を担う。子どもから大人までの幅広い年齢層や発達障害・医療的ケア児など多様な背景をもつ対象に、多様な現場で柔軟に迅速に判断し対応するための高度なスキルが求められる。さらに多様なキャンプナース®の活動を通じて地域への貢献が期待できる。

キャンプナース®は地域からのニーズはあるものの認知度は低い。2025年キャンプナース®の活動を包括的に支援する団体「キャンプナース®ナビ」が設立され、本学でもキャンプナース®のスキル向上として「キャンプナース®ファーストエイド・アドバンスエイド講座」を企画した。加えてキャンプの企画・運営を看護教育に導入し教鞭をとる講師の基調講演と様々な背景を持つ対象のキャンプでのキャンプナース®の体験を共有し、情報交換と交流を図る場を設けることでキャンプナース®の役割の明確化とスキルの向上を目指した。キャンプナース®の育成およびネットワークの構築として3回の講座を企画開催したため、以下報告する。

II. 活動内容

1. 対象者

- ・地域貢献活動に興味のある看護師
- ・キャンプナース®として活動している看護師
- ・キャンプナース®を必要とする地域団体

2. 募集方法

- ・セミナーチラシ（右）を看護実践研究センター公開講座案内に同封し、900施設に郵送
- ・関連学会のブースに展示
- ・看護実践研究センター、看護教育支援協会HPに掲載

3. 募集人数、参加費

先着20名の募集、参加費各回2,000円

4. 開催場所

大阪公立大学 阿倍野キャンパス看護学舎
C棟 7階 実習室・セミナー室

大阪公立大学大学院看護学専攻 看護実践研究センター看護学専攻 看護学上級専攻
一般社団法人看護教育支援協会 キャンプナース®ナビ 共催

キャンプナース®育成およびネットワークの構築

自然の中で生きる看護のチカラ

いのちと暮らしを支える、キャンプナース®という新しい選択

自然の中で、命を守り、暮らしを応援する看護師。キャンプナース®は、新しい看護のかたちです。この精神では、自然の中で子どもたちや子どもたちを支える人々たちの身体・こころ・社会性の成長と向き合う看護を学び、現場で活かせる応急対応力と信頼構築の力を習得します。

3ステッププログラム紹介

Step 1：キャンプナース®ファーストエイド講座（定員20名）
日時：2025年10月12日（日）9:30-15:00
内容：急な体調変化への初期対応

Step 2：基調講演 & キャンプナース®実践報告
日時：2025年11月16日（日）9:30-15:00
内容：キャンプナース®の体験共有、活動の広がりを知る場

Step 3：キャンプナース®アドバンスエイド講座（定員20名）
日時：2026年3月1日（日）9:30-15:00
内容：野外活動に必要な応急処置

受講料 各回 2000円

申込QRコード

【対象】 キャンプナース®として地域貢献活動に興味のある看護師
既にキャンプナース®として活動している看護師
キャンプナース®を必要としている地域団体

【会場】 大阪公立大学 阿倍野キャンパスC棟 7階 セミナー室・実習室等

企画担当
大阪公立大学大学院看護学専攻 宮下佳代子（子ども・家族ケア科学） 仲井あや（小児看護学）
一般社団法人看護教育支援協会 児玉善子（代表理事） 奈良学園大学 村川園美（小児看護専門看護師）

キャンプナース®ナビ

5. 開催日時、内容

【Step1】 キャンプナース®ファーストエイド講座

2025年10月12日(日) 9:30~15:00




【Step2】 基調講演&キャンプナース®実践報告

2025年11月16日(日) 9:30~15:00

【Step3】 キャンプナース®アドバンスエイド講座

2026年3月1日(日) 9:30~15:00

表1. 「キャンプナース®の育成およびネットワークの構築」 各回の概要

Step1 : キャンプナース®ファーストエイド講座	
【導入】 キャンプナース®の役割	担当 宮下佳代子、児玉善子
【講義】 キャンプ中の急な体調変化 初期対応 外傷 誤飲・誤嚥、窒息 アナフィラキシー、心停止など	講師 佐藤寿哲 (四條畷学園大学小児看護学)
【演習】 キャンプ中の急な体調変化 初期対応 エピペンの使い方、ハイムリック法 BLSなど	
【状況設定課題 & ロールプレイ】 キャンプナース®状況設定 【ディスカッション】	
Step2 : 基調講演 & キャンプナース®実践報告	
【基調講演】 看護基礎教育と組織キャンプ キャンプとは、体験の重要性 看護基礎教育との関連、看護学校での実践例 コミュニケーションについて キャンプナース®に期待すること 看護学生、キャンプナース®の育成	 講師 赤木 功 (NPO法人ナック 代表理事) (青少年海洋センター所長)
【キャンプナース®実践報告】	
① 初めてのキャンプナース®活動 子どもの挑戦を支える	伊瀬 薫
② 海の自然体験施設におけるキャンプナース®の役割 子どもにとって良い自然体験って何だろう	平位 美紀
③ キャンプにおけるフィジカルアセスメント	宮下 佳代子
④ 特別支援学校のみならず一緒に行く修学旅行 キャンプナース®が支えるソーシャルインクルージョン	児玉 善子
⑤ アメリカと日本のキャンプナース®の比較	宮ノ下 優心
【ディスカッション】	

Step3: キャンプナース®アドバンス講座

【導入】 キャンプナース®書籍の紹介

担当 宮下佳代子、児玉善子

【講義】 野外活動に必要な応急処置

講師 佐藤寿哲

外傷（切傷、熱傷）、骨折、虫刺
熱中症、水難事故など

（四條畷学園大学小児看護学）

【演習】 野外活動に必要な応急処置

外傷処置（三角巾法、ポイズンリムーバー）
処置時の配慮など



【状況設定課題 & ロールプレイ】

キャンプナース®状況設定課題

III. 参加者の概要およびアンケート結果

1. 参加者の概要（2026年2月現在）

1) 人数

	Step1 ファーストエイド講座	Step2 基調講演&実践報告	Step3 アドバンスエイド講座
申込人数	7名	9名	16名
参加（欠席）	6名（1名）	7名（2名）+学部生	—

2) 申込者 居住地

大阪府	兵庫県	愛知県	静岡県	山形県	入力なし
8	3	1	1	1	6

3) 申込者 所属（回答任意）

病院	特養	教育機関	出版社	その他	入力なし
4	1	1	1	3*	10

* 地域おこし協力隊、看護教育支援協会、所属無

4) 申込者 職種（複数回答）

看護師	保健師	保育士	出版	教育関係
19	1	1	1	2

5) キャンプナース®の活動経験

あり	なし（活動予定）	なし（検討中）	なし
4	5	4	8

6) キャンプナース®の登録

登録済	興味がある	考えていない
7	12	1

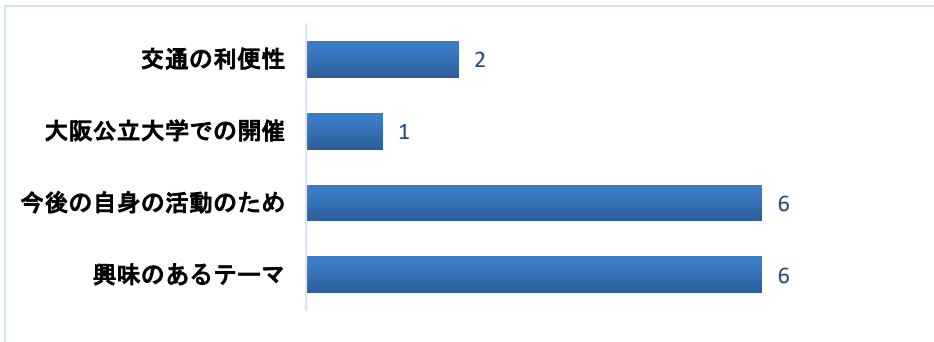
7) 本講座を知ったきっかけ（複数回答）

実践研究センター チラシ	公大看護の HP	看護教育支援協会HP	キャンプナースナビ HP	知人の紹介	その他
2	1	4	5	6	4

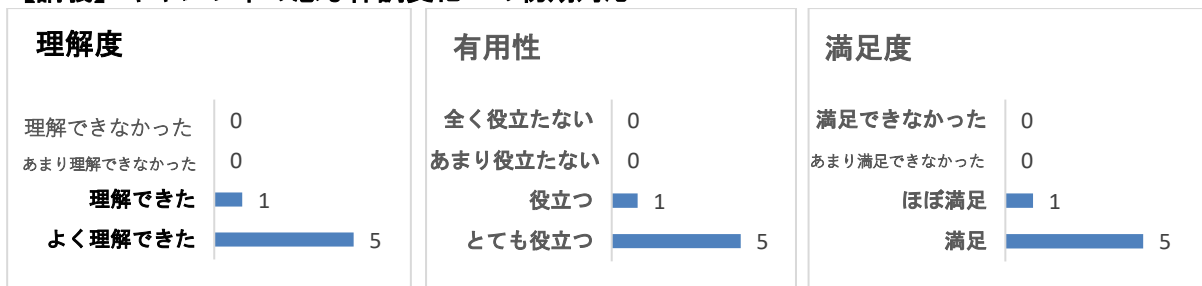
2. 各講座終了後のアンケート結果

1) Step1 キャンプナース®ファーストエイド講座 アンケート結果 (参加者6名)

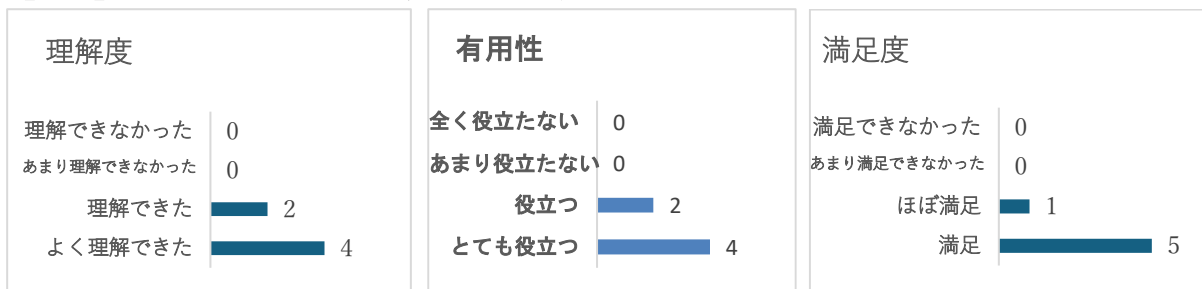
参加の動機 (複数回答)



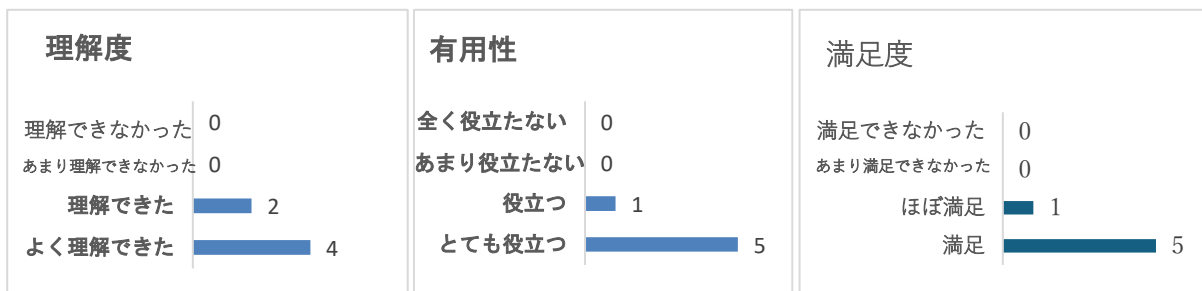
【講義】キャンプ中の急な体調変化への初期対応



【演習】キャンプ中の急な体調変化への初期対応



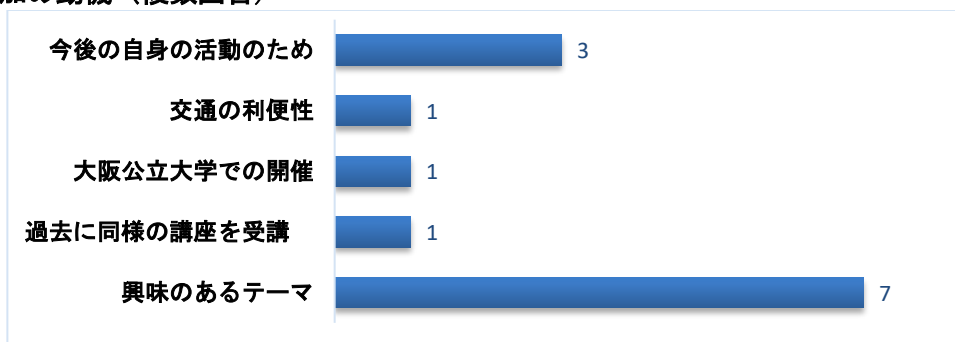
【事例設定課題&ロールプレイ】



<自由記述一部抜粋>

- ・普段仕事でも小児看護をすることはないので、初動対応などができずごく勉強になった。
- ・野外活動という病院とはまた違った環境になった時にできるだろうかという不安は感じました。こればかりは実戦で経験を積んでいくしかないかと思いました。
- ・一般向けの小児救急法のセミナーはでたことがありましたが、根拠の説明があるところが違い、よかったです。時間が短かく、もっと演習、ロールプレイで看護師役を体験したかった。

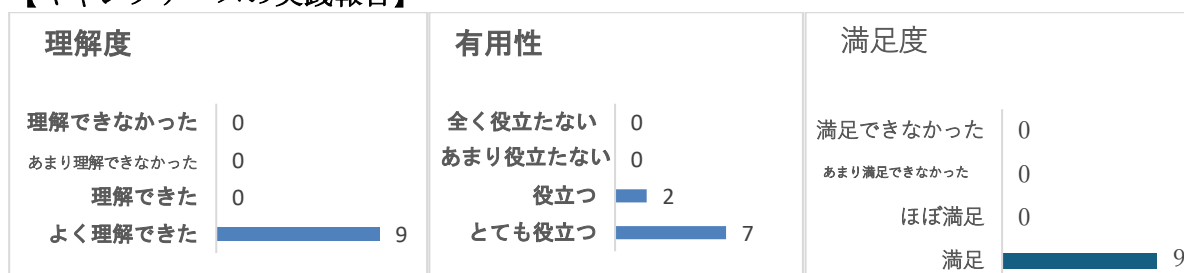
2) Step2 基調講演&キャンプナース®実践報告 アンケート結果 (参加者10名)
参加の動機 (複数回答)



【基調講演】看護基礎教育と組織キャンプ



【キャンプナースの実践報告】



〈自由記述—一部抜粋〉

- ・病棟以外で看護師という資格を使って活動できるキャンプナースについてよく知れた。
- ・貴重なお話をたくさんきけて本当に楽しく学びが大きくなった。
- ・キャンプナースについて知れてとても嬉しく有意義な時間を過ごすことができた。
- ・子どもさんの思いなどをくみ取り関わることの大切さ。その子なりの「できる」を一緒にさがすことの大切さはすごく心うたれた。
- ・講義はとても楽しく、全てにおいて今後NSしても活用していきたいと感じた。
- ・活動の中でいろいろな経験があり、共有することで自分の体験にもつながると思った。
- ・本日の講義はとても勉強になりました。今後、全国でこの取り組みが広がって多くの方に知って頂きたいと感じました。雑誌でもぜひ紹介させてください (by出版社)

*Step3 キャンプナース®アドバンス講座の結果は、開催日の関係により割愛

IV. 活動総括と今後の課題

- ・ 2025年度大阪公立大学看護学研究科看護実践センター事業として「キャンプナース®の育成およびネットワークの構築」の講座を初めて開催することができた。各回の参加費を2000円、定員20名の枠を設けて募集したが、回を重ねるごとに申し込み者が増える傾向にあった。チラシの配布やHPでの広報により、様々な地域からの受講者が本学阿倍野キャンパスに集い、キャンプナース®の活動に理解と関心を得ることができた。
- ・ 3つのStepで講座を企画したことは、キャンプナース®の活動を初めて知る受講者や既にキャンプナース®として活動している受講者にとって、新たな知見を得る機会や再学習の場、交流の場などそれぞれのニーズに応じた内容であったと評価する。
- ・ 講義と演習を組み合わせた講座の構成、ディスカッションの場を設けたことは、各回の理解度・有用性・満足度の高い評価に反映されている。ロールプレイ型の演習は、参加者がキャンプという活動のなかで遭遇することの多い事例をイメージすることが可能となり、キャンプナース®の実践に即した体験することでより有用性の高い評価を得ることができた。
- ・ 基調講演の内容は、看護職者・教育者として日々の実践に広く活用できる内容であり、看護のチカラを改めて考える機会となった。
- ・ 各講座の時間配分と内容のブラッシュアップをはかり、受講者のレディネスとニーズに沿った講座の継続的な開催を検討する。
- ・ 基調講演の講師や内容を早期から広報の素材に組み入れていく。
- ・ キャンプナース®の活動は、地域貢献活動としての期待も高い。今後も地域で広く活躍する看護師のニーズの把握に努め、看護実践力の向上に寄与していきたいと考える。



地域包括支援センター看護職のネットワークの構築 ～交流会・コンサルテーションの開催～

岡野明美

I. 活動の背景

地域包括支援センター（以下、包括）は、2006年4月に創設された高齢者の総合相談、権利擁護、介護予防ケアマネジメント等を担う地域包括ケアシステムの中核機関である。2022年4月末現在で全国5,404箇所¹⁾に設置され、設置体制は、市町村が運営する直営型と民間法人に業務委託する委託型がある。その割合は、直営型20%、委託型80%¹⁾で年々委託型が増えている。職員は、保健師等（保健師と看護師）、社会福祉士等、主任介護支援専門員等の3職種の配置が義務づけられている。1施設における平均配置人数は、保健師等1.7人、社会福祉士1.9人、主任介護支援専門員1.5人²⁾である。包括所属保健師の実態は、保健師歴10年未満が5割を超し、多くは1人配置³⁾で、市町村単位の創設のため市町村を越えたつながりを持ちにくい。また委託型包括の保健師は行政保健師のようにキャリアラダーが示されておらず⁴⁾、研修体制等人材育成の状況が異なる。これらから委託型包括の保健師は行政保健師と異なる環境にある。これらから保健師職の困難感には、業務の偏りによって本来の保健師活動に支障がある⁵⁾、保健師1名配置が多く実践力が向上できない⁵⁾、求められる役割が認識しづらい⁶⁾、委託型包括であることでの活動のやりにくさ⁷⁾等が報告されている。また、包括所属保健師を対象とした研究活動を行う中で「他の保健師はどのような活動をしているのか」「保健師とは何だろう」⁸⁾「支援が解決につながらない葛藤」「在宅継続か施設入所の見極めへの迷い」「ケアマネジメントや権利擁護等業務は公衆衛生看護学の学問基盤だけでは太刀打ちできない」等の語り⁹⁾がある。

そこで、地域包括支援センター保健師職のネットワークの構築を目指して、包括所属保健師らが集い横のつながりをもつこと、互いの状況を理解し合い、エンパワメントできることを目的として交流会を企画し活動を開始した。活動の振り返りから交流会が活動や悩み・不安の共有、保健師の役割・専門性へのジレンマ等が語られ、参加者のニーズを把握するとともに、交流会開催の意義を確認することができた。従って交流会の存在意義はあるためを継続している。

交流会では「介護保険にないサービスや地域の資源づくりに関すること」が毎回のように話題にあがっている。そこで本年度の交流会テーマを「暮らしを支える地域の資源を考えよう」とした。

II. 活動目的

全国の地域包括支援センター保健師および関係者のつながりをつくることで、情報交換や交流を図り、地域包括支援センター保健師が抱える葛藤や悩みが軽減され、地域包括支援センター保健師の役割について考え、行動できることをめざす。

【達成目標段階】

- 1) 全国の地域包括支援センター保健師および関係者のつながる場が持てる
- 2) つながる場で情報交換や交流が図れる

- 3) 地域包括支援センター保健師が抱える葛藤や悩みが軽減される
- 4) 地域包括支援センター保健師の役割について考え、自分なりの答えを見出せる
- 5) 地域包括支援センター保健師の役割を行動できる

Ⅲ. 活動方法

1. 参加者

地域包括支援センターに所属する保健師、看護師、その他活動の関係者

2. 活動運営

本学大学院看護学研究科教員の他、本学大学院看護学研究科 CNS コース修了者が運営に携わった。本学大学院看護学研究科 CNS コース修了者は関連学会 WS で活動の発表及びコンサルテーション実施にも貢献した。本学大学院看護学研究科教員は周知・参加申し込みへの対応および WS での発表に携わった。また、地域包括支援センター実務者および地域包括支援センターを対象に研究している教育・研究者等学外者も運営や関連学会 WS での発表に携わった。

3. 募集方法

主に近畿内の地域包括支援センター800 施設にチラシを郵送するとともに、本学看護実践研究センターホームページに日程を掲載した。また運営スタッフからも積極的に関係者に参加を呼びかけた。

4. 活動の全体像

活動場、関連学会 WS とオンラインでの交流会の開催、コンサルテーションの実施、今年度は課題別ワーキングを新たに取り組んだ。

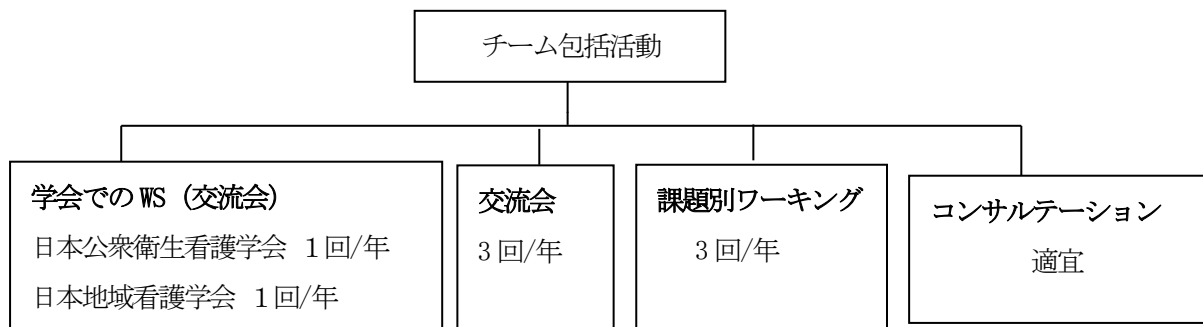


図 1 活動の全体像

〈目的内容〉

- 学会での WS : 包括活動の発信と課題提議／研究報告、活動報告、グループワーク
- 交流会 : 横のつながりづくり／年間のテーマを決め、グループに分かれて話す場
- 課題別ワーキング : 課題解決／関心のあるテーマごとにグループに分かれて自主的に話す
- コンサルテーション : 課題解決／悩み事に対して個別で話を伺い、自分なりの答えを導く場

IV. 活動結果

1. 活動内容

1) 関連学会 WS1 回 (日本地域看護学会学術集会)、交流会 3 回、課題別ワーキング 3 回、コンサルテーションを 3 回実施した。

日時	テーマ	参加者数
2025 年 6 月 21 日 10:00~11:15 交流会 (zoom)	テーマ 暮らしを支える地域の資源を考えよう 職場でできることは	18 名 (申込 25 名)
2025 年 9 月 7 日 日本地域看護学会 第 28 回学術集会	テーマ 男性高齢者の社会参加の推進の取組み 研究報告「男性高齢者の社会活動への参加要因 ～活動参加に向けた支援を考える～」 実践報告「男性高齢者の居場所づくり」(ディスカッション「男性高齢者の社会参加の推進ってどうしていますか」)	22 名
2025 年 9 月 20 日 10:00~11:15 課題別ワーキング (zoom)	説明会 グループ分け グループ活動 (介護予防 G、地区診断 G、認知症 G)	9 名 (申込 14 名)
2025 年 10 月 20 日 10:00~11:15 交流会 (zoom)	暮らしを支える地域の資源を考えよう 他機関と一緒にできることは?	20 名 (申込 49 名)
2025 年 12 月 20 日 10:00~11:15 課題別ワーキング (zoom)	グループ活動 (介護予防 G、地区診断 G、認知症 G)	9 名 (申込 16)
2026 年 2 月 21 日 10:00~11:10 交流会 (zoom)	暮らしを支える地域の資源を考えよう 地域と一緒にできることは?	17 名 (申込 43 名)
2026 年 3 月 14 日 10:00~11:15 課題別ワーキング (zoom)	グループ活動 (介護予防 G、地区診断 G、認知症 G)	

2) 交流会・学会 WS 参加者アンケート結果

アンケート回答協力者 67 名 (述べ数) (回収率 91.8%)

(1) 参加者の概要

所属先	回答数 (%)
直営型地域包括支援センター	1 (1.5)
委託型地域包括支援センター	49 (73.1)
行政機関	2 (3.0)
教育機関	5 (7.5)

その他（老人介護福祉施設、他）	7 (10.5)
未回答	3 (4.4)

(2) 参加目的（重複回答）

質問項目	回答数 (%)
テーマに興味があった	31 (46.3)
交流をもちたかった	33 (49.3)
情報を得たかった	9 (13.4)
過去に参加してまた参加したいと思った	3 (4.5)

(3) 参加回数

初めて 28 (44.8%), 2回 10 (14.9%), 3回 4 (6.0%), 4回以上 20 (29.9%), 未回答 5(7.5%)

(4) 地域包括支援センターの保健師として働く上で感じていること（自由記載）

分類	記載内容
保健師職の専門性や役割が不明確	保健師の役割が明確でない
	総合相談や事業に取り組んでいたらいつものまにか自身が保健師と言う事を忘れてしまっていることがある
	困難ケースの対応も介護予防の取り組みも全て保健師の職能であると現場の保健師が気づいていない
業務量の多く、保健師業務が十分できないジレンマ	業務量が多すぎる。保健師としての専門である地区診断や地域活動がなかなかできないジレンマがある
	予防マネジメント担当件数が多く、介護予防事業にかかわる時間が取れない
	相談業務と地域活動との両立にもっと人員がほしい
スキルアップへのジレンマ	本当はもっと深いことをするとは思いますが深く考える頭がなく何をどうしたらいいのかわからない
	相談につながらないケースの掘り起こし
困難事例の対応	関わりを拒む人との関り
	地域と関わりたがらない方への支援
	精神疾患に関わると近所トラブルなどが多く、受診への繋ぎや家族にも同様の精神疾患があり重層的な問題を抱えるケースが多い
	困難な事例に時間がとられる
	高齢者自身が長年生活してきた中で様々な健康問題を抱えているので変化を受け入れてくれない説明や取り組みの難しさ
他機関との連携	はざまの方をどう支えるか
	複合的な課題を抱える高齢者や家庭が増えており、関わるために他機関の足並みを揃えていく連携やスーパーバイズ機能があれば良い
地域支援	障がい分野や子育て分野などの他機関との連携
	若い世代に地域活動の参加してもらうことの難しさ
	地域とのつながりの作り方
	資源につなぐりにくい男性に対する地域資源

(5) 参加の感想（自由記載）

分類	記載内容
悩みの共有の場になった	他の方も同じような悩みや困りごとを感じているのだと少し安心した
	元気をもらった
	とても楽しかった
	交流会の場で皆様の活躍に私も頑張っていきたいと感じた
楽しかった	自分の意見を発言したり、ほかの方の意見もよく見えるようになったため議題以外のことについても話し合ったが大変参考になった
	色々な地域の事情が知れて面白かった
他包括の活動を聞いて役立つ	楽しかった
	他の包括での活動を知る事ができ、また課題の共有も行えたため、大変有意義だった
	他市の包括職員と話せて良かった
	自分の包括内で、他市と比較する機会が少ないから良い機会になった
振り返りの機会になった	経験豊富な方のお話が聞いて良かった
	自分の包括で出来ていないことを再認識出来た
その他	他市の状況を知ることで、自分の包括の足元を見ることができた。思っているよりも出来ていることも多いとも感じ明日からがんばる力を得た。
	グループによるだろうが悩みや情報などを共有できる場にならず残念だった

(6) 今後取り上げてほしいテーマ

- ・他職種連携
- ・認知症高齢者と成年後見制度
- ・精神疾患のある高齢者の関わり方
- ・重層的支援体制整備
- ・地区診断
- ・男性高齢者の地域支援
- ・地域資源の発掘や創出
- ・業務における ICT 活用

3. 課題別ワーキングの実施

コンサルテーション後の受け皿や交流会参加者の課題意識の高まりなどから、新たに課題別ワーキングの実施を本年度初めて行った。介護予防、認知症、地区診断の3グループが形成され、1グループ2～5名であった。各グループには主催メンバーが入りグループ運営の見守りや助言を行った。

4. コンサルテーションの実施

個別の相談の受け入れるため実施している。3件の申し込みがあり対応を行った。

これまでに実施したコンサルティイは、交流会への参加、学会WSでの活動報告など活動が広がっていることが確認できた。

V. 活動の振り返りと今後の活動に向けて

1. 活動の振り返り

Zoomでの交流会の参加者数は、20～30名であり交流会のニーズは継続されている。方法は、オンラインを用いたことで自宅あるいは職場から数人での参加など参加の利便性はよかった。しかし、土曜日開催となるため直営型は参加しにくい傾向はこれまでと同様であった。今年度は日本地域看護学会でのWSを実施し22名程度の参加があった。交流会参加2回以上の者が5割で続けての参加者が増えている傾向にあった。

交流会の効果は、これまでと同様の傾向で同職種と活動内容や悩みを共有することでの安心感や勇気を得たり、他包括の活動を聞いて今後のかつどのヒントを得た。また根強く保健師の専門性への悩みやジレンマを抱えて参加していることが読み取れた。これらから活動の行動目標としてあげている、情報交換や交流を図ることで、抱える葛藤や悩みが軽減されていることや保健師職の役割について考えることができていることがアンケート結果から推測される。

交流会だけでは、自分なりの答えを見出し、役割を行動できるには至っていない現状があるため本年度新たに課題別ワーキングを実施した。参加者数は少ないが同じテーマに関心のある参加者が自分の考えを伝えあい、同じメンバーで数回ディスカッションする機会は、包括活動への前向きな意識の高まりにつながっていると発言を聞いて感じる場所である。

コンサルテーション件数は少ないがニーズがあることを確認できた。包括の現場に対して課題意識は高いがどうしたらよいかに困る相談であった。

以上から、保健師等の横のつながりをもつこと、互いの状況を理解し合い、エンパワメントできるに関して成果はあったと考え、活動を継続していく必要性を確認できた。

2. 今後の活動に向けて

交流会ならびに学会WSでは「包括保健師職のつながる場が持て、情報交換や交流が図れる」ことから、行動目標としている、「抱える葛藤や悩みの軽減」や「活動の振り返り、活動へのモチベーション」につながっていることが読み取れた。コンサルテーションの成果としては、「活動を振り返り自分なりの答えを見出せている」が件数は少ない。課題別ワーキングでは「包括保健師職の役割を行動できる」職場においてその力を発揮するには至っていないが、グループワーキングを通して行動できる力を吸収している段階と考える。参加者の意見は2026年3月のワーキング終了後に回収する予定である。

以上から今度も本活動の必要性はあると考え、活動は継続していく。

引用文献

- 1) 厚生労働省：地域包括支援センターについて。
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001088939.pdf> (2024年1月12日)
- 2) 三菱UFJ&コンサルティング：地域包括支援センターが行う包括的支援事業における効果的な運営に関する調査研究事業報告書, https://www.murc.jp/uploads/2018/04/koukai_180418_c5, 2018 (検索日：2024年1月29日)
- 3) 日本看護協会：地域包括支援センター及び市区町村主管部門における保健師活動実態調

査報告書. <https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/senkuteki/2014/25-chiikisien>.
(2024年1月30日).

- 4) 田中裕子, 工藤禎子: 地域包括支援センターの保健師の人材育成に関する研究・報告の動向. 北海道医療大学看護福祉学部紀要, 28: 21-30, 2021.
- 5) 川原瑞代, 杉田加代子, 児玉智恵子, 小野美奈子, : 地域包括支援センターの機能強化に関わる保健師の活動実態と課題. 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報, 3: 33-42, 2014.
- 6) 若杉里実: 新任保健師1年目の体験—保健センターと地域包括支援センター保健師の比較—. 岐阜看護研究会誌, 4: 13-19, 2012.
- 7) 富田恵, 大沼由香, 小池妙子, 工藤雄行, 寺田富二子, 中村直樹: 委託型の地域包括支援センター保健師のネットワーク構築に関する認識. 弘前医療福祉大学紀要, 6(1): 91-98, 2015.
- 8) 岡野明美, 古賀佳代子, 曾我智子, 小林奈緒子: 地域包括支援センター保健師の役割と葛藤. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会抄録: 92, 2018.
- 9) 岡野明美, 古賀佳代子, 曾我智子, 小林奈緒子, 保母恵, 永井潤子: 地域包括支援センター保健師の役割～他組織との連携から～. 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会抄録: 97, 2020.

看護師対象の基礎から学ぶ看護研究セミナー（基礎編・継続編）

大阪公立大学大学院看護学研究科先進ケア科学領域ヒューマンケア科学分野

細名 水生, 森木 ゆう子, 富澤 理恵, 重見 雅子, 椋木 実希

I. 活動目的

大阪府内に在住または府内の医療・保健・福祉施設に所属する看護師に対して、看護研究セミナー「看護師対象の基礎から学ぶ看護研究セミナー」を開催し、看護師の研究能力の向上を図る。これにより、所属施設及び活動の場において、研究活動を推進し看護実践能力や看護の質の向上につながり対象者への看護に還元できると考える。

II. 活動内容

1. 参加者：医療・保健・介護・福祉施設に所属する看護師 基礎編・継続編ともに定員 10 名
2. 場所：大阪公立大学大学院看護学研究科（阿倍野キャンパス看護学舎 B 棟・C 棟）
3. 実施内容

○基礎編

研究初心者や研究の経験が少ない看護師の参加を歓迎する。本学看護学研究科の教員による講義及び演習を行う。看護研究の経験は問わず、実践に活かすことができる看護研究の概要と活用の手立てになる内容とする。講義を受けるだけでなく、実際に参加者は、本セミナーの受講とともに、自分の研究テーマで、文献検討から研究計画書作成まで取り組んでいく。

○継続編

実際の研究への取り組みにおける基礎編の受講内容を踏まえた発展させた内容とし、講義と演習で構成した。

4. 募集方法

本学のホームページへの掲載、大阪府内 100 床以上の医療機関 200 施設にチラシを配布した。

5. 参加費：セミナー3 回シリーズで基礎編・継続編ともに 3,000 円とした。

III. 活動の実施報告

○基礎編

3 回のセミナーの参加者は、看護師 10 名であった。

1. 第 1 回セミナー

- 1) 開催日時：2025 年 10 月 31 日（金） 10：00～16：00
- 2) 場所：阿倍野キャンパス看護学舎 B 棟 501 教室
- 3) 参加者：10 名
- 4) プログラム



図 1 セミナーチラシ

10：00～12：00	講義「看護研究の概要と進め方」講師：細名 臨床看護研究の概要、文献検索の方法、リサーチクエスチョンの整理
13：00～16：00	PCを用いた医中誌での文献検索演習



図2 基礎編第1回の会場の様子

2. 第2回セミナー

- 1) 開催日時：2025年11月21日（金） 10：00～16：00
- 2) 場所：阿倍野キャンパス看護学舎C棟901教室 3) 参加者：10名
- 4) プログラム

10：00～12：00	講義「研究計画からの研究のプロセス」講師：細名 研究計画書の作成から研究実施から研究成果の公表までの一連のプロセス
13：00～16：00	演習「研究計画書を作成する」自分の研究計画書の作成



図3 基礎編第2回の会場の様子

3. 第3回セミナー

- 1) 開催日時：2025年12月23日（火） 10：00～16：00
- 2) 開催場所：阿倍野キャンパス看護学舎C棟1001教室 3) 参加者：9名
- 4) プログラム

10：00～12：00	演習「研究計画書の修正」研究計画書の確認と個人指導を実施した。
13：00～16：00	研究計画書の発表(1人15分)及びディスカッション(参加者及び教員)



図4 基礎編第3回の会場の様子

○継続編

3回のセミナーの参加者は、看護師6名であった。

1. 第1回セミナー

- 1) 開催日時：2025年10月17日（金） 10：00～16：00
- 2) 場所：阿倍野キャンパス看護学舎C棟901教室 3) 参加者：6名
- 4) プログラム

10：00～12：00	講義「研究デザインを選択とクリティーク」講師：細名
13：00～16：00	演習「論文クリティークの実際」論文クリティークの演習



図5 継続編第1回の会場の様子

2. 第2回セミナー

- 1) 開催日時：2025年11月10日（月） 10：00～16：00
- 2) 場所：阿倍野キャンパス看護学舎C棟1001教室 3) 参加者：6名
- 4) プログラム

10：00～12：00	講義「データ分析の手法」講師：細名
13：00～16：00	演習「データ分析を実施する」模擬データからの分析と意見交換



図6 継続編第2回の会場の様子

3. 第3回セミナー

- 1) 開催日時：2025年12月8日（月） 10：00～16：00
- 2) 開催場所：阿倍野キャンパス看護学舎C棟1001教室 3) 参加者：6名
- 4) プログラム

10：00～12：00	講義「研究成果の公表のプロセス」講師：細名
13：00～16：00	演習「研究成果の発表の体験」自分の研究成果の発表と意見交換



図7 継続編第3回の会場の様子

IV. アンケートの集計結果

1. 参加者の背景 (表 1, 表 2)

表 1 基礎編の参加者の背景

1) 年齢：20歳代2名、30歳代2名、40歳代4名、50歳代2名	3) 取得免許：看護師10名、保健師3名
2) 最終学歴：高校衛生看護科2名、専門学校5名、4年制大学3名	
4) 看護職としての経験年数：平均約17.45年	
5) 看護職として所属したことがある施設：病院（病棟）8名、病院（外来）3名、訪問看護ステーション1名、介護保健施設・介護福祉施設2名、社会福祉施設1名、その他1名	
6) 看護研究に取り組んだ経験：あり7名（学生時代4名、就職後5名）	
7) 看護研究を学んだ経験：あり4名（学生時代授業1名、就職後自己学習2名、就職後研修受講1名）	
8) セミナーに参加した理由（一部抜粋）	
<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究をはじめたいから。 ・看護研究のしっかりとした基礎教育を受けないままに今現在に至り、CNとしての活動としてもスタッフへの教育を担う立場としても基礎から学びたいと考えているため。 	

表 2 継続編の参加者の背景

1) 年齢：30歳代1名、40歳代1名、50歳代4名	2) 最終学歴：専門学校6名
3) 取得免許：看護師6名	4) 看護職としての経験年数：平均25年
5) 看護職として所属したことがある施設：病院（病棟）6名、病院（外来）1名	
6) 看護研究に取り組んだ経験：あり5名（就職後4名）	
7) 昨年度までに本セミナーの基礎編を受講した：2名	
8) 看護研究を本セミナー以外で学んだ経験：あり4名（就職後自己学習2名、就職後研修受講3名）	
9) セミナーに参加した理由（一部抜粋）	
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識を習得し、作法や構成など最低限の指導ができるようになりたいと考えるため。 ・何度か研修を受講した事があるが身につけていない。教育部門担当になり、知識の向上を目指したい。 ・前回基礎編に参加させて頂いた時にとっても勉強になったので、続きも学びたいと思い参加しました。 	

2. セミナーへの参加について

(1) 満足度について (図 8, 図 9, 表 3, 表 4)



図 8 基礎編各回のセミナー満足度

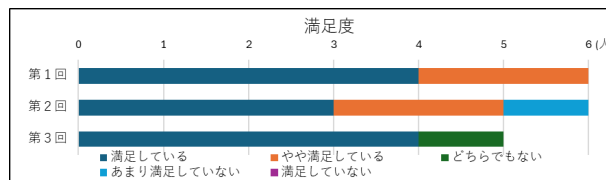


図 9 継続編各回のセミナー満足度

表 3 基礎編満足度理由（一部抜粋）

<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究に向かう一歩をふみだせた気がしました。大学の先生に教えていただくのはとても自信になります。逃げずにとりにくみます。 ・看護研究をする機会がなかったため、日頃の患者様との関わり方で疑問に思った事を深く考えられて良かったです。 ・看護研究セミナーに参加して、研究は”患者さんのため”という事を改めて認識することができたため。 ・今さら聞けない基礎的なところから詳しく講義していただき大変参考になりました。
<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書を実際に記載する事で、自分の課題や普段は気にしていなかった事を立ち止まって考える事が出来た。 ・看護研究ができる自信がありませんでしたが文献を読み方向性がみえてきたので良かったです。 ・午後より研究計画書を作成しましたが、1人で考えながら進めていく事が難しかったです。 ・文献検索から計画書作成までの流れがつかめてきたため。 ・自身でのワークを行いながら、アドバイスも頂けて実践的であったのでとても満足しています。
<p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎から学ぶことができました。他施設の方と意見交換をできてよかったです。 ・臨床で働くなかで、研究に向き合う機会を得れ、原点にもどり学ぶことができました。 ・研究に関する教育を受けたことがなかったため、漠然としたものが少し具体化されていきました。 ・色々な施設のはなしをきけて勉強になった。ディスカッションも活発にできてたのしかった。専門的な視点をしれてよかった。

表4 継続編満足度理由（一部抜粋）

第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、病棟でもクリティークという新たな視点がある事を共有して看護研究に関わるきっかけになった。 ・研究の種類が少し理解できた。クリティークは他の人の意見をお聞き出来て良かったです。 ・クリティークをして別の視点を聞くことが出来て良かったです。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・エクセルのグラフの作成方法がわかり少し前進できた。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・研究に必要な作法や査読のポイントについて学ぶことができた。グラフやスライド作成が難しく感じた。

(2) 理解度について (図10, 図11, 表5, 表6)

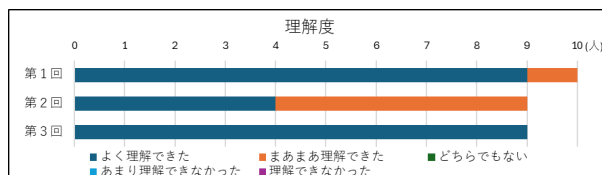


図10 基礎編各回のセミナー理解度

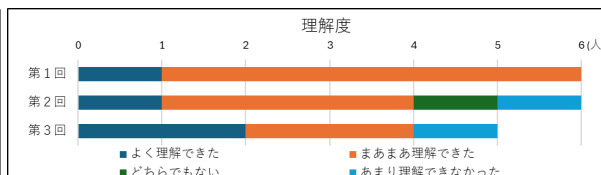


図11 継続編各回のセミナー理解度

表5 基礎編理解度理由（一部抜粋）

第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・少し自分にはレベルが高すぎると思いました。2回目もすごく不安ですが頑張ります。 ・文献検索の方法も分かりやすかったです。 ・資料もわかりやすく説明（講義）も理解できました。2回目からもたのしみです。「研究に患者のため」がとても心に残りました。 ・スライドがわかりやすかったです。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・講義では分かった感じに感じたけど、実際に作成してみると思う様にすまなかったの、理解に及んでないと感じた。 ・研究の方法や具体的内容について知れた。 ・まだ途中なので自分の中に落とし込めているか今はまだわからない。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、グループワーク、研究計画書の実践を通して理解ができました。 ・様々な計画書を見て研究はこういうものなんだと分かりました。 ・他の方の研究についても参考になって、勉強になりました。 ・看護研究が難しくてできないイメージが和らいだ。

表6 継続編理解度理由（一部抜粋）

第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・配布されたレジュメを確認しながらクリティークを行っていく流れは理解できた。 ・わからない言葉（用語）も多かった。 ・本日のセミナーの中でわからない用語、意味を調べていきたいと思えます。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・量的、質的分析方法がわかって良かった（例があったのでわかりやすかった）。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果をどのように公表するか、どんなプロセスでまとめていくか学ぶ事ができた。

(3) 難易度について (図12, 図13)

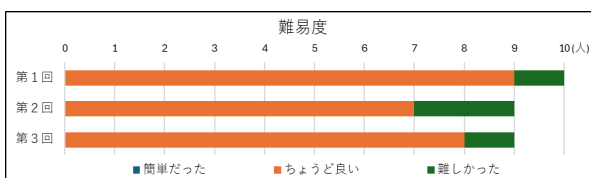


図12 基礎編各回のセミナー難易度

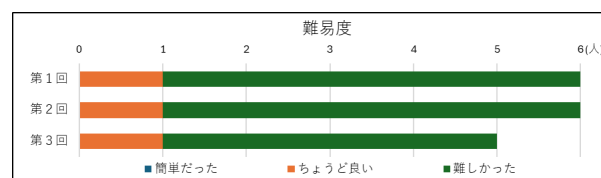


図13 継続編各回のセミナー難易度

(4) セミナーに参加して良かった点 (表7, 表8)

表7 基礎編セミナーに参加して良かった点 (一部抜粋)

<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画書までみていただけるのはうれしいです。金額も安く自費参加なのでありがたいです。 ・少人数で先生も何度も気にかけて下さり、安心して受けることができました。 ・研究に興味を持ちながらも、その方法が分からずに悩んでいる方が一定数いらっしゃる事に気づけた。 ・講義内容もわかりやすく、実際に計画書作成までご支援頂けること。少人数開催であること。 ・分からない事を良く教えてもらえた。
<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書についての知識を得て、実際に計画書を記入する事で自分の理解度が確認できた。 ・自分ではなかなかとり組めない背中を押してもらえます。 ・普段思っただけでも中々それを深く考え、実践に至ることがなかったため考え直す機会となりました。 ・計画書作成について、わからない事を全て教えて頂いた。 ・研究計画書の作成方法が知れて良かった。 ・看護研究は本当にわからないことだらけでしたが、少し近づくことができました。
<p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究と向き合う時間を作ることができて良かったです。 ・基礎を学べたこと。計画書を書くことができ、研究をはじめの良いきっかけになった。 ・基礎から学びが得られた。 ・具体的に計画書作成まで段階をふんで教えていただいたこと。直接指導をもらったこと。 ・様々な分野のNsの葛藤や取りくみ知り意識向上につながった。 ・他の分野の方と意見交換して、色々な角度から意見を頂けた。 ・研究を現実的に可能なものに計画しなおすことができた。

表8 継続編セミナーに参加して良かった点 (一部抜粋)

<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手な点を勉強できてよかった。 ・他病院のスタッフの方のクリティークの視点など自分以外の考えをきく事ができた。
<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手な分野に挑戦できる機会となった。 ・実際の作業を通じて学習できた。 ・基礎内容もまじえて話して頂けるので理解しやすいです。 ・ピボットテーブルの使い方、関数計算が少し理解できた。
<p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な人数でわかりやすい資料提供で良かった。 ・データ分析がとてもがてなのですが、わかりやすく教えて頂き感謝しております。 ・一連の研究に必要なことを学べたことは良かったです。テキストは宝物で活用していきます。

V. 今後の課題

少人数制の看護研究セミナーについて、毎年開催することで軌道に乗り、基礎編については、募集人数を早々に満たし開催することができている。基礎編は、臨床の看護師のニーズに合った、基礎から学ぶ内容として満足度が高い状況であった。更に少人数制で文献検索や研究計画への個別指導や発表会という内容は好評である。一方、継続編については、前年度は基礎編受講者に限定したところ募集人数が集まらず、本年度は、基礎編受講者以外にも申し込み可とした。継続編として、基礎編を受講したうえでの発展的な内容で展開しているが、基礎編が定員オーバーで申し込みできなかったとの事で、研究初心者ながら継続編を申し込んでいた人が数名いた現状で、継続編は難易度が高く感じられた。基礎から学ぶセミナーとしては、研究初心者対象の内容のニーズが高いことから、基礎編の内容を充実させたセミナーが望ましいといえる。

思春期にある子どもへの包括的セクシュアリティ教育実践者の育成

古山美穂・渡邊香織・清水彩・高知恵・戸田まどか・林里沙子
実践看護科学領域 家族支援看護科学分野 母性看護・助産学

I. 活動目的

昨今の不登校児の増加や自殺、被虐待児の存在など思春期にある子どもの状況から、大阪府下の教育機関・福祉施設のニーズに合わせた包括的セクシュアリティ教育の持続的な提供が求められている。本活動の目的は、包括的セクシュアリティ教育の実践者を育成・増やすことと、実践者間、実践者と教育機関・福祉施設とのネットワークを強化することである。今年度は講演会を通して、包括的セクシュアリティ教育の実践に必要な知識の獲得を目指した。

II. 活動内容

1. 対象 包括的セクシュアリティ教育の実践に関心のある保健医療福祉の専門家。特に本学学部生・大学院生、卒業生・修了生に推奨する。
2. 募集方法 実践者候補となる看護職の参加を多く募るため、大阪府看護協会、大阪府助産師会所属の施設を中心に「病院・助産所」512か所、保健センターなど「地域施設」48か所、「通所療養施設」7か所、「教育機関」14か所、計581か所にちらしを送付した。大阪府立大学セクシュアリティ教育プロジェクトで構築した「思春期の子どもを支える会」のWebサイトにもちらしを載せた。ちらしに記載した看護実践研究センターの募集フォームで、事前申し込みを行った。
3. 講演会

日時：2025年10月18日（土）13:00～15:20

場所：大阪公立大学阿倍野キャンパス 看護学部学舎C棟8階 C801 講義室

講演会の内容は、教師や福祉施設のスタッフが実践者と共有しておきたい事柄と教育支援の具体的な流れが理解できるように講師とともに検討を重ね、企画した。

12:30～ 受付開始 事前アンケートの協力依頼・回答

【第1部 子どもたちの現状と課題・学校で行われている教育支援の実際】

13:05～13:08 包括的セクシュアリティ教育とは 古山美穂

13:10～13:40 高等学校 三浦仁美さん（大阪府立緑風冠高等学校 養護教諭）

下村奈々子さん（大阪府立門真西高等学校 養護教諭）

13:40～14:10 中学校 吉田博子さん（河内長野市立加賀田中学校 養護教諭）

14:10～14:30 教師と協働する包括的セクシュアリティ教育の企画から運営までの実際 古山

14:40～15:10 シンポジウム

【第2部 包括的セクシュアリティ教育として実践者に求めること】

15:10～15:15 事後アンケートの協力依頼・回答

講演会は録画し、思春期の子どもを支える会 (<https://www.omu.ac.jp/nurs/adssupport/>) の登録者以外も自由に閲覧できるようホームページ「活動紹介」にアップした。

III. 活動結果

36名の申し込みがあり29名の参加があった。そのうち本学学部生が2名、大学院修了生が4名いた。写真は講演会の様子。



IV. 活動の評価

事前事後にアンケート調査を行った。

1. 事前アンケート結果

事前アンケートの調査項目は、専門分野、包括的セクシュアリティ教育の経験の有無、知識の理解度（包括的セクシュアリティ教育が必要な子どもの現状と課題、学校のカリキュラムや年間スケジュール、教員（学校）組織、学校で行われている教育支援の実際、包括的セクシュアリティ教育の企画から運営までの実際、実践者に学校や福祉施設が求めていること）であった。20名から回答を得た（回収率69.0%）。

1) 専門分野 カッコ内は%（以下、同様）

教員・教育関係者（のみ回答）は6名（30.0）、教員・教育関係者（助産師）1名（5.0）、教員・教育関係者（保健師）1名（5.0）、看護師2名（10.0）、助産師4名（20.0）、心理士1名（5.0）、相談支援専門員1名（5.0）、保健師（スクールカウンセラー;以下SC）1名（5.0）、ソーシャルワーカー（以下SW）2名（10.0）、学生1名（5.0）であった。

2) 学校や福祉施設での包括的セクシュアリティ教育の経験の有無

経験がある6名（30.0）、経験はない14名（70.0）であった。専門分野と経験の有無について表1に示す。経験がない看護師、心理士、相談支援専門員、保健師（SC）、SW、学生の参加を得た。

職種	経験がある (N=6)		経験はない (N=14)	
教員・教育関係者（のみ回答）	3	15.0%	3	15.0%
教員・教育関係者(助産師)	1	5.0%	0	0.0%
教員・教育関係者(保健師)	0	0.0%	1	5.0%
看護師	0	0.0%	2	10.0%
助産師	2	10.0%	2	10.0%
心理士	0	0.0%	1	5.0%
相談支援専門員	0	0.0%	1	5.0%
保健師:SC	0	0.0%	1	5.0%
ソーシャルワーカー	0	0.0%	2	10.0%
学生	0	0.0%	1	5.0%

3) 知識の理解度 (表 2)

どの項目も「ほとんど理解できていない」「あまり理解できていない」を合わせると 60%以上 (60 - 85%) が理解できていないと回答していた。知識の理解度と経験の有無について表 2 に示す。包括的セクシュアリティ教育が必要な子どもの現状と課題については、実践の経験がある人の中にも「理解できていない」、また経験はない人の中にも「ある程度理解している」という人もおり、現状と課題を専門家間で共有できる本講演の意義が見出せると考えられた。

内容		経験がある (N=6)		経験はない (N=14)		合計	
1) 包括的セクシュアリティ教育が必要な子どもの現状と課題	ほとんど理解できていない	1	5.0%	3	15.0%	4	20.0%
	あまり理解できていない	1	5.0%	8	40.0%	9	45.0%
	ある程度理解している	3	15.0%	3	15.0%	6	30.0%
	非常に理解している	1	5.0%	0	0.0%	1	5.0%
2) 学校のカリキュラムや年間スケジュール (包括的セクシュアリティ教育を行う時間や機会の制限)	ほとんど理解できていない	1	5.0%	5	25.0%	6	30.0%
	あまり理解できていない	1	5.0%	7	35.0%	8	40.0%
	ある程度理解している	2	10.0%	2	10.0%	4	20.0%
	非常に理解している	2	10.0%	0	0.0%	2	10.0%
3) 教員 (学校) 組織 (年度によって包括的セクシュアリティ教育の担当者が異なること)	ほとんど理解できていない	0	0.0%	6	30.0%	6	30.0%
	あまり理解できていない	3	15.0%	3	15.0%	6	30.0%
	ある程度理解している	1	5.0%	5	25.0%	6	30.0%
	非常に理解している	2	10.0%	0	0.0%	2	10.0%
4) 学校で行われている教育支援の実際	ほとんど理解できていない	0	0.0%	5	25.0%	5	25.0%
	あまり理解できていない	3	15.0%	5	25.0%	8	40.0%
	ある程度理解している	1	5.0%	4	20.0%	5	25.0%
	非常に理解している	2	10.0%	0	0.0%	2	10.0%
5) 教師と (福祉施設のスタッフ) と協働する包括的セクシュアリティ教育の企画から運営までの実際	ほとんど理解できていない	1	5.0%	5	25.0%	6	30.0%
	あまり理解できていない	3	15.0%	8	40.0%	11	55.0%
	ある程度理解している	0	0.0%	1	5.0%	1	5.0%
	非常に理解している	2	10.0%	0	0.0%	2	10.0%
6) 包括的セクシュアリティ教育の実践者に学校や福祉施設が求めていること	ほとんど理解できていない	0	0.0%	5	25.0%	5	25.0%
	あまり理解できていない	3	15.0%	8	40.0%	11	55.0%
	ある程度理解している	2	10.0%	1	5.0%	3	15.0%
	非常に理解している	1	5.0%	0	0.0%	1	5.0%

2. 事後アンケート結果

事後アンケートの調査項目は、事前アンケートの項目に加え、講演会の内容が期待に沿っていたか (「非常に満足」から「非常に不満」の 5 件法)、実施者となる場合に必要なもの (複数回答) 「思春期の子どもの発達段階とニーズ」、「多様な性 (性的指向、性自認など) に関する知識」、「性暴力や人権に関する教育方法」、「相談対応の具体的なスキル」、「学校や福祉施設との連携方法」について、一連の運営の見学や参加の希望の有無であった。28 名から回答を得た (回収率 96.6%)。

1) 専門分野

教員・教育関係者 (のみ回答) は 12 名 (42.9)、教員・教育関係者 (助産師) 1 名 (3.6)、教員・教育関係者 (保健師) 2 名 (7.1)、看護師 2 名 (7.1)、助産師 6 名 (21.4)、心理士 1 名 (3.6)、相談支援専門員 1 名 (3.6)、SW2 名 (7.1)、学生 1 名 (3.6) であった。

2) 学校や福祉施設での包括的セクシュアリティ教育の経験の有無

この項目について回答を得た 27 名中、経験がある 13 名 (48.1)、経験はない 14 名 (51.9) であった。専門分野と経験の有無について表 3 に示す。

表3 専門分野と経験の有無（事後）

N = 27

職種	経験がある (N=13)		経験はない (N=14)	
教員・教育関係者（のみ回答）	7	25.0%	4	14.3%
教員・教育関係者(助産師)	1	3.6%	0	0.0%
教員・教育関係者(看護師)	1	3.6%	1	3.6%
看護師	2	7.1%	0	0.0%
助産師	2	7.1%	4	14.3%
心理士	0	0.0%	1	3.6%
相談支援専門員	0	0.0%	1	3.6%
ソーシャルワーカー	0	0.0%	2	7.1%
学生	0	0.0%	1	3.6%

3) 知識の理解度（表4）

講演会后、経験の有無に関わらず、すべての項目で「ある程度理解した」、「非常に理解した」であった。学校のカリキュラムや年間スケジュール、教員（学校）組織について理解され、包括的セクシュアリティ教育を行う時間や機会に制限がある中、行っている現状や、年度によって包括的セクシュアリティ教育を企画する担当者が異なる現状について周知された。その上で、教育機関・福祉施設にいる思春期の子どもにどのような届け方が可能か、今後協働して検討する共通理解が整った。

表4 知識の理解度と経験の有無（事後）

N = 28

内容	経験がある (N=13)		経験はない (N=14)		回答なし (N=1)		合計		
1) 包括的セクシュアリティ教育が必要な子どもの現状と課題	ほとんど理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	あまり理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	ある程度理解した	5	17.9%	9	32.1%	1	5.0%	15	53.6%
	非常に理解した	8	28.6%	5	17.9%	0	0.0%	13	46.4%
2) 学校のカリキュラムや年間スケジュール（包括的セクシュアリティ教育を行う時間や機会の制限）	ほとんど理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	あまり理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	ある程度理解した	3	10.7%	6	21.4%	0	0.0%	9	32.1%
	非常に理解した	10	35.7%	8	28.6%	1	5.0%	19	67.9%
3) 教員（学校）組織（年度によって包括的セクシュアリティ教育の担当者が異なること）	ほとんど理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	あまり理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	ある程度理解した	2	7.1%	4	14.3%	0	0.0%	6	21.4%
	非常に理解した	11	39.3%	10	35.7%	1	5.0%	22	78.6%
4) 学校で行われている教育支援の実際	ほとんど理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	あまり理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	ある程度理解した	5	17.9%	8	28.6%	1	5.0%	14	50.0%
	非常に理解した	8	28.6%	6	21.4%	0	0.0%	14	50.0%
5) 教師と（福祉施設のスタッフ）と協働する包括的セクシュアリティ教育の企画から運営までの実際	ほとんど理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	あまり理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	ある程度理解した	3	10.7%	5	17.9%	0	0.0%	8	28.6%
	非常に理解した	10	35.7%	9	32.1%	1	5.0%	20	71.4%
6) 包括的セクシュアリティ教育の実践者に学校や福祉施設が求めていること	ほとんど理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	あまり理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	ある程度理解した	4	14.3%	6	21.4%	0	0.0%	10	35.7%
	非常に理解した	9	32.1%	8	28.6%	1	5.0%	18	64.3%

4) 講演会が期待に沿っていたか

「非常に満足」が9名（32.1）、「満足」が19名（67.9）であった。実践の経験がある参加者にとっても「非常に満足」、「満足」という回答を得た。

5) 今後、包括的セクシュアリティ教育を提供する実施者となる場合に必要なもの（複数回答）

回答が多い順に示した。「性暴力や人権に関する教育方法」22名(78.6)、「相談対応の具体的なスキル」22名(78.6)、「思春期の子どもの発達段階とニーズ」19名(67.9)、「多様な性(性的指向、性自認など)に関する知識」18名(64.3)、「学校や福祉施設との連携方法」13名(46.4)であった。実践の経験がある人も経験がない人と同様のニーズがあることが示された(表5)。また経験がある人がその他として記載した項目に、バウンダリー、限られた時間の中で8つのキーコンセプトをどのように組み込むか、またその実際、生徒の意思決定支援という回答があった。実際に教育を実践する中で見えてきた、具体的な項目もあることがわかった。教育経験を重ねながら、実践者間でアイデアを共有する機会の必要性が示唆された。

表5 今後、あなたが包括的セクシュアリティ教育を提供するとしたら、どのような内容が必要かと経験の有無(事後) N=28

必要な内容	経験がある (N=13)		経験はない (N=14)		回答なし (N=1)		合計
性暴力や人権に関する教育方法	11	39.3%	10	35.7%	1	3.6%	22 78.6%
相談対応の具体的なスキル	10	35.7%	11	39.3%	1	3.6%	22 78.6%
思春期の子どもの発達段階とニーズ	10	35.7%	9	32.1%	0	0.0%	19 67.9%
多様な性(性的指向、性自認など)に関する知識	9	32.1%	8	28.6%	1	3.6%	18 64.3%
学校や福祉施設との連携方法	6	21.4%	6	21.4%	1	3.6%	13 46.4%
その他(具体的にご記入ください)							
バウンダリー	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	1 3.6%
限られた時間の中で、8つのキーコンセプトをどのように組み込むか、またその実際	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	1 3.6%
生徒の意思決定支援	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	1 3.6%
保護者たちへの対応	0	0.0%	1	3.6%	0	0.0%	1 3.6%

6) 一連の運営の見学や参加の希望の有無

希望ありは20名(71.4)であった。教員・教育関係者(のみ回答)8名、助産師5名、教員・教育関係者(看護師)2名、教員・教育関係者(助産師)・看護師・心理士・学生・SW各1名であった。実践の経験がある人からも10名の希望があった。今後、教員・教育関係者や実践経験がある人と協働で運営を行うことができれば、これまで本プロジェクトが行ってきた教育の課題を発見する可能性もあり、PDCAサイクルを回しながらよりよい教育を模索していけると考える。

7) 自由記載

職種	自由記載
教員・教育関係者	いい時間になりましたね！SOSの出し方教育の話はぜひ前向きに進めましょう
教員・教育関係者	助産師さんによる性の相談会、その手があったか！と目からウロコ。次年度校長マネジメント予算で導入します。後、吉田先生の教材を共有してほしいです。
教員・教育関係者	本校でも1年生向けに性教育の講演会を実施していますが学校から依頼する際の予算も限られている中、来ていただける団体やどこにアプローチをすればいいのか情報を得ることができました。ありがとうございました。
教員・教育関係者	いろいろな講演会や研修に行っています。そこで、出会う学校外の方々为学校年代の子どもたちを大切に思う人がこんなにいるんだということをたくさんの人に知ってもらいたいというつもっています。そのことを改めて学校で伝えたいと思いました。あなたたちが出ていく社会には、あなたたちを思っている人がたくさんいることが何よりも尊いと思っております。またこのような機会を作ったくださると嬉しいですね。ありがとうございました。
教員・教育関係者	私は養護教諭です。高校1年生には私が、高校3年生には外部の方という実施の仕方をしています。外部の方に期待することですが、生徒のニーズが学校によって全く違うので、そこはしっかりと打ち合わせをお願いしたいということと、いろんな境遇の子どもたちがいて、みんな親に望まれきたのよというようなキレイごとで傷ついてしまう生徒がいるという学校側の考えも受けて内容や言葉を考えていただけるとありがたいと思います。
SW	本日はありがとうございました。本日登壇していただいた先生方の熱意が伝わってきました。
助産師	学校の先生方が外部との連携を望んでおられるということを知ることが出来ました。学校側との共同、相談が非常に重要であるかを知ることが出来ました。

助産師	知らなかったことを勉強させていただきました。実践者育成の講義も受けたいです。
助産師	来年度からも引き続き包括的性教育を頑張りしたいと思います
心理士	思っていたよりもセクシャリティとは幅広いことなのだなと思いました。専門家や機関が連携して教育していく大切さを学びました。ありがとうございました。
教員・教育関係者	部活終わりで慌てて出てきて名刺を忘れるという失態を犯してしまいましたが、とても勉強になりました。三年前に自分が学年団で人権推進委員になり、本校で古山先生に講演していただいた際に、事前打ち合わせに如何に一人で空回っていたかがよくわかりました。あれから生徒の実態をよく観察してその時々に応じた人権ホームルームを企画し、協働の大切さを実感しながらこの春卒業させました。このような機会をいただき本当にありがとうございました。
助産師	病院勤務の合間に学校に出張講座をしていた経験がありますが、助産師の側にも時間の制約があること、助産師教育の中で包括的セクシュアリティ教育について十分学べていない現状やかなり高いスキルが求められており、その習得は個人に委ねられていること、助産師の熱意で半ばボランティアという形でしか継続していかない現状があると感じています。そこは大きな課題であり、今日の先生方が求められていることに応えたいと思う一方、すぐには解決されない問題だろうと思います。
相談支援専門員	自分が実践する側のものではないですが、実際の現場での様子参考になりました。

V. 今後の課題と展望

講演会を通して、参加者が包括的セクシュアリティ教育の実践に必要な知識の獲得を目指す今年度の目的は達成できた。一方、これまでの包括的セクシュアリティ教育の経験の有無に関わらず、さらに必要な知識や仕組みなど実践（候補）者のニーズが明らかになった。次年度以降は、包括的セクシュアリティ教育の実施を望む教育機関・福祉施設を募り、今回アンケートで見学・参加を希望した人とともに教育の企画、運営、実施、評価を行う。また「性暴力や人権に関する教育方法」、「相談対応の具体的なスキル」などニーズのある知識について発信・共有する機会も検討したい。2月に講師の三浦仁美さん、下村奈々子さん、北河内地区の養護教諭、本学卒業生で大阪公立大学工業高等専門学校養護教諭、講演会参加者の開業助産師2名（うち1名は本学修了生）とともに、北河内地区での包括的セクシュアリティ教育の協働について実践可能なところはどこからか、顔が見える話し合いをした。助産師は教育の経験がすでにあるため、各高等学校の養護教諭との協働が開始されると期待できる。



精神医療を支える看護職に向けたオンラインセミナーの企画・運営

(精神行動ケア科学) 河野あゆみ 松田光信 富川順子 塚部千佳子

1. 活動の目的

本活動の目的は、大阪府内の精神医療を支える看護職者に向けて、オンラインで行う精神看護のセミナー（以下、精神看護オンラインセミナー）を定期的を開催することによって、看護職者の看護生涯学習を支援すると共に精神看護の質的向上に寄与することである。

申請者らは、2023年度より精神看護学を専門とする本研究科教員（以下、精神看護学教員）による活動チームを組織し、実習施設や社会人大学院生が勤務する施設の看護職を対象にした精神看護オンライン研修会を企画・運営してきた。2024年度からは、本センターの活動支援を受け、対象範囲を大阪府内における精神科病棟を有する医療施設と精神科訪問看護ステーションの看護師及び大学院生へと拡大した。結果、全4回のセミナーを開催し、延べ223名の参加を得た。

セミナーの事後アンケートによれば、殆どの参加者がセミナー内容に興味を抱き、自身の実践に役立つと、肯定的な回答をした。また、精神科看護を専門としていない参加者もみられたが、精神疾患患者への看護実践や研究に関する関心や理解を高める機会になったことがわかった。

そこで、今年度も、精神科看護オンラインセミナーを企画・運営し、精神看護学教員の教育研究に係る活動と成果を広く発信することとした。これにより、対象者の大学院進学意欲を高め受験生の獲得にも波及させることも目指した。

2. 活動方法

- 1) 対象者：大阪府内に設置された精神科病棟を有する医療施設又は、精神科訪問看護基本療養費、精神科複数回訪問加算、精神科重症患者支援管理連携加算の届け出受理を受けている訪問看護ステーションの看護師と、本研究科において精神看護学を学ぶ大学院生とした。なお、病院および訪問看護ステーションの選定には、厚生労働省・地方厚生局の公表情報を参照した（対象病院数 51、対象訪問看護ステーション数 1042、計 1093 施設）。広報の方法は、対象施設の看護部長又は管理者宛にセミナーへの案内文を郵送した。
- 2) セミナーの形式：ZOOM を活用して行う双方向型のセミナーとした。セミナーは1回あたり90分で構成し、講義又は演習と質疑応答で構成した。講師は申請者らが担い、セミナー資料はPDF化し、毎回のセミナー開催中にZOOMのチャット機能を用いて配信した。

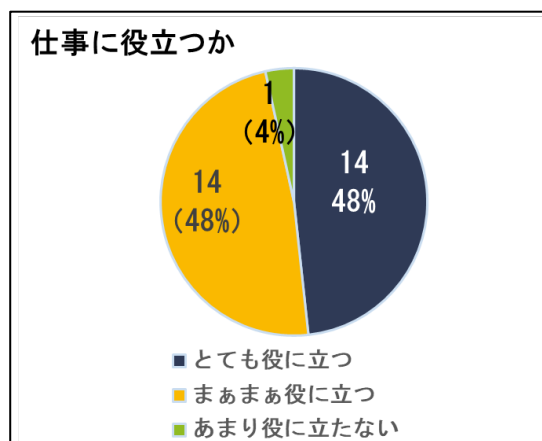
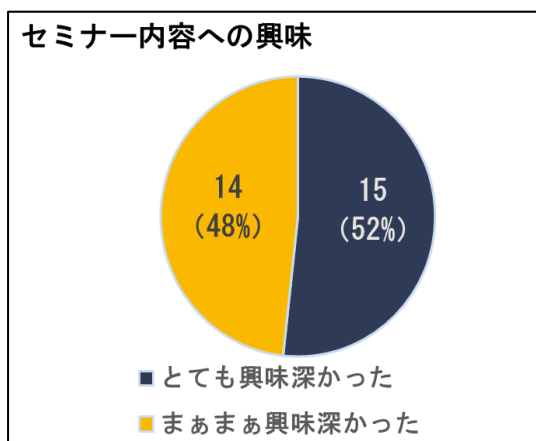
3) 各回の内容：以下表のとおり行った。

回	開催月	テーマ	講師
第1回	9月	当事者のニーズにこたえる精神科訪問看護	河野
第2回	12月	セルフケア理論に基づく看護過程の展開	富川
第3回	3月	医療観察法病棟における社会復帰支援(開催予定)	塚部
第4回	6月	統合失調症をもつ当事者に対する心理教育の基本(開催予定)	松田

3. 参加者の概要と参加者アンケート

1) 第1回「当事者のニーズにこたえる精神科訪問看護」

- ① 参加者の概要：参加者数49名（うち1名は病院所属、42名は訪問看護ステーション或いはクリニック所属、他は不明者）
- ② アンケート：回答者数29名（回収率59.1%）



<自由記載（一部抜粋）>

◆ 感想や学び

- ・ 実際の利用者様からのアンケートにより、期待していること求められていることがわかった。訪問看護に取り入れられることなど検討していきたいと思います。
- ・ 精神科訪問看護について、改めて考えることができました。参加者の色々な意見も見られて良かったです。
- ・ 訪問看護を行うにあたり、当事者のニーズについて、わからないときがあったので、今回の研修では提供しているため看護と、当事者の希望している看護を比較、把握することができた。利用者さんに寄り添えているのか、方向性として合っているのかカンファレンスを行いながらの毎日です。方向性は間違っていなかったと再確認できました。

た。

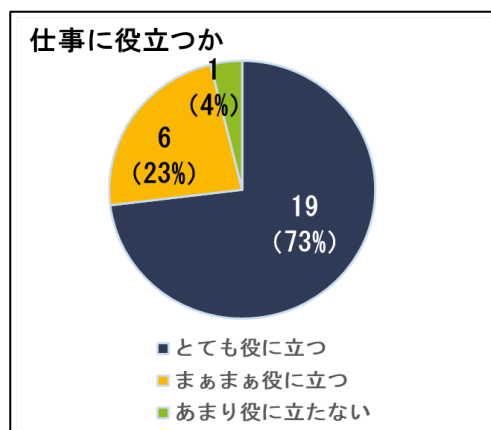
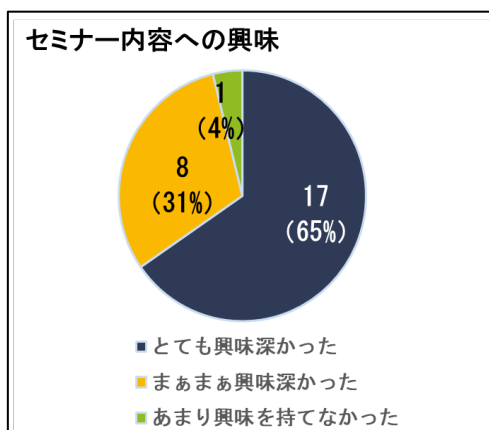
- ・ 精神疾患患者さんの地域移行が増加している現状やそれによりニーズも多様性があることを学習しました。講義内容はわかりやすくとても良かったです。精神疾患はまだ初歩の段階なのでまずはもっと知識を深めていきたいと思います。

◆ 要望や意見

- ・ グラフが少し見にくかった(分かりにくかった)

2) 第2回「セルフケア理論に基づく看護過程の展開」

- ① 参加者の概要：参加者数 39 名（うち 9 名は病院所属、2 名は大学所属、24 名は訪問看護ステーション、他は不明者）
- ② アンケート：回答者数 26 名（回収率 66.6%）



<自由記載（一部抜粋）>

◆ 感想や学び

- ・ セルフケア理論の基本から展開例まで拝聴させていただき、大変勉強になりました。
- ・ 学生指導を行なっているが、自分自身がセルフケア理論と結びつけるのが難しく思っていたので、参加して事例があったことでより分かりやすかったです、ありがとうございました。
- ・ 訪問看護にて精神訪問看護と関わるようになってまだ数ヶ月目です。地域で生活するかたで、訪問看護から自立へ促せることができること、アセスメントの重要性を再確認することができました。
- ・ 業務の中で、日常見聞きする理論でも、しっかり理解して活用できているかというと首を傾げてしまっている。そういう意味では、自身が携わる基本的な知識を振り返

る、再認識できたという点で非常に意義のある研修内容であったと思う。

- ・ わかりやすかったです。

◆ 意見や要望

- ・ 対等な人間関係にたった理論であることを強調されたが、そう思わない
- ・ 精神看護の視点で事例をどのようにアセスメントし、効果的・効率的に介入するか、具体的な話をお伺いしたいです。
- ・ とてもわかりやすかったです。質問の際に、うまく手上げができず、チャットで質問内容を送ったのですが、先生に気づいてもらえず、時間もギリギリだったので確認できませんでした。

4. 今後の課題と展望

多くの参加者が、自身の実践に活用できる有用な学びを得ていた。参加者の傾向としては、訪問看護ステーション所属の者が大多数を占め、精神科看護を専門としていない者もみられたことから、精神疾患患者への理解や看護実践について学びを深めるよい機会になったと考える。今後も参加者のニーズに応じたテーマを設定し、このような活動を継続していきたいと考えている。今後は、図表など資料の提示方法を工夫することや、実践への活用につながる内容を詳細に説明すること、質疑応答の時間を多めに確保するなどより良い方法を検討していきたい。

家族への看護を考える会：家族看護フォーラム

井上敦子 中山美由紀

I. 活動目的

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の必要性が高まる現在、療養者の価値観を尊重した意思決定を支えるうえで、家族の理解と関与をどのように支援するかは看護における重要な課題となっている。しかし、家族構造の多様化や臨床現場での家族との関わりの減少により、家族支援に自信をもてない看護師も少なくない。そこで、今年度の家族看護フォーラムは、「ACPにおける家族看護」をテーマに掲げ、ACPにおける家族支援のあり方や臨床での実践課題について検討することを目的として開催した。フォーラムでは家族看護の基礎理論、アドバンス・ケア・プランニングの概念の再確認に加え、家族支援専門看護師による実践事例を紹介し、ACPを家族と協働して進めるための視点や具体的な支援について共有したので、以下に報告する。

II. 活動内容

主催 大阪公立大学大学院看護実践研究センター 家族への看護を考える会
2025年
11月15日(土)
14:00~16:00
開催場所：大阪公立大学阿倍野キャンパス
看護学部C棟801
対象：臨床看護師 80名(先着順)
参加方法：事前申し込み制
参加費：1000円

第I部：講義
『家族看護の基礎』
家族支援専門看護師 轟内 亜希(徳島赤十字病院)
『アドバンス・ケア・プランニングにおける家族看護』
家族支援専門看護師 藤原 真弓(堺市立総合医療センター)

第II部：実践事例紹介
『急性期病院におけるアドバンス・ケア・プランニング』
家族支援専門看護師 蓮見 歩(奈良県総合医療センター)
『退院調整におけるアドバンス・ケア・プランニング』
家族支援専門看護師 米田 愛(兵庫県立尼崎総合医療センター)

アドバンス・ケア・プランニングにおける家族看護

申込〆切 10月20日(月)

大阪公立大学 阿倍野キャンパス 大阪府阿倍野区船場1-4-3 上記QRコードより申し込みください
お問い合わせ先 大阪公立大学大学院看護実践研究センター 家族への看護を考える会事務局 e-mail: gr-nurs-family@onu.ac.jp

1. 対象者
家族看護に興味のある臨床看護師
2. 募集方法
家族看護フォーラムのチラシ（左記）を本学看護実践研究センター公開講座案内に同封し、大阪府下の990施設に配布。
家族看護学分野ホームページおよび看護実践研究センターホームページに掲載し参加を呼びかけた。
3. 参加費 1,000円
4. 開催日時・場所
2025年11月15日(土)14:00~16:00
大阪公立大学阿倍野キャンパス看護学部C棟801

5. 内容

第I部として「家族看護の基礎」「アドバンス・ケア・プランニングにおける家族看護」の講義、第II部は、「実践事例紹介」として急性期病院・退院調整における場面を取り上げ、事例を交えた解説を行った（表1）。

フォーラム終了後、大学CMSフォームを用いて参加者に家族看護フォーラムの内容に関する評価および感想の入力を依頼した。個人特性および参加の動機等については、申込み時に入力を依頼した。

表1. 家族看護フォーラムの具体的な内容

テーマ：家族看護フォーラム ～アドバンス・ケア・プランニングにおける家族看護～	
第Ⅰ部：講義	
『家族看護の基礎』	藪内 亜希（家族支援専門看護師） 所属：徳島赤十字病院
『アドバンス・ケア・プランニングにおける家族看護』	藤原 真弓（家族支援専門看護師） 所属：堺市立総合医療センター
第Ⅱ部：実践事例紹介	
『急性期病院におけるアドバンス・ケア・プランニング』	蓮見 歩（家族支援専門看護師） 所属：奈良県総合医療センター
『退院支援におけるアドバンス・ケア・プランニング』	米田 愛（家族支援専門看護師） 所属：兵庫県立尼崎総合医療センター

Ⅲ. 参加者の概要およびアンケート結果

1. 参加者の概要（申込者 96名／参加者 83名／アンケート回答者 43名）

1) 年齢：参加者（名）

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
人数（／96）	13	21	32	25	5

2) 臨床経験

	0～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21～30年	31年以上
人数（／96）	12	16	15	16	28	9

3) 所属分野

	病棟	外来	救急室	ICU・HCU	地域連携	その他
人数（／96）	42	13	1	11	11	18

4) 看護専門学校・大学等で家族看護を学んだ経験

有 25名 無 71名 /96名

有：大学・大学院 など

5) 今までに研修会などで家族看護を学んだ経験

有 30名 無 66名 /96名

有：学会参加、看護協会の研修、過去の家族看護フォーラム

6) この家族看護フォーラムを何で知りましたか？（複数回答可）

	病院掲示チラシ	公大看護のHP	上司や同僚の紹介	その他
人数（／96）	95	9	14	7

その他：家族看護学会、友人の紹介、実習で来られた先生からの紹介

7) この家族看護フォーラムに参加したいと思ったのは何故ですか？（複数回答可）

	テーマ	講師	公大の開催	交通至便	開催時期	過去の講座	その他
人数（／96）	96	4	10	0	5	8	4

- ・ 家族看護が難しいと思ったから
- ・ 緩和病棟に勤めているため
- ・ 委員会として
- ・ 学術集会での交流集会在とても興味深かったため
- ・ 終末期ケア専門士の勉強をしているから
- ・ 家族看護を学びたいと思っているから

2. 家族看護フォーラム参加後のアンケート結果

1) 家族看護フォーラム評価（回答 44 名／参加者 83 名）

	大変興味深かった	興味深かった	どちらともいえない	興味がなかった	全く興味がなかった
家族看護の基礎	25	17	2	0	0
アドバンス・ケア・プランニングにおける家族看護	28	15	1	0	0
急性期病院におけるアドバンス・ケア・プランニング	32	12	0	0	0
退院支援におけるアドバンス・ケア・プランニング	32	12	0	0	0

2) 家族看護フォーラムの感想(一部抜粋)

第Ⅰ部

「家族看護の基礎」について


- ・日々の臨床で活かしていきたい。もっと深く学びたいと感じた。
- ・家族看護について初めて聞きました。何気なくやっていたことも、家族看護としての分野があることも初耳でした。
- ・家族という言葉と、看護として中立であること、価値観を押し付けない事を改めて認識しました。
- ・療養施設で働いているため、ACPを開催したり面会に立ち会ったりしても、利用者側の代弁ばかりしがちだった。今後は家族側の気持ちや状況の表出にも手助けできたらと思った。

家族看護の目指すところ

その家族らしい、健康的な生活を家族自身の力で維持・増進できるように支援すること

患者を含めた家族全体を支援の対象とし…

- ・家族の力を最大限に引き出すこと
- ・家族全体の健康を目指すこと
- ・未来の危機に備える力をつけること

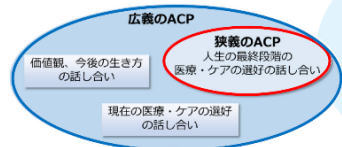


(講義資料抜粋)

「アドバンス・ケア・プランニングにおける家族看護」について

- ・家族との関わり方や難しいことを聞きたい時に話し方がわからなかったので勉強になった。
- ・影響力の強い、発言の大きい家族の意見が優先になりがちであることを改めて感じ家族全体の思いを聞けるようにしたいと思った。
- ・ACPで悩む場面は多いですが、家族看護として必要なことがよく分かりました。
- ・大変聞き取りやすく、わかりやすい講義でした。狭義のACPという言葉も初めて知り勉強になりました。病棟に持ち帰りたいです。

ACPとは



信頼関係のある医療・ケアチーム等の支援を受けながら、本人が現在の健康状態や今後の生き方、今後受けたい医療・ケアについて考え(将来の心づもりをして)家族等と話し合うことです。
Miyashita et al. Asian Symptom Manager 2022;04:002-013

4 SAKAI CITY MEDICAL CENTER

(講義資料抜粋)

第Ⅱ部

「急性期病院におけるアドバンス・ケア・プランニング」について

- ・急性期だからこそ、色んな難関があり、問題が順通りに捗らない、難しさがあると思いました。事例があるからこそ、大変興味を持って、共感できました。
- ・事例を通し、具体的な声掛けやタイミングが勉強になった。本人も家族も話しやすい声掛けをし、仲介役になれるように実践していきたいと思った。
- ・本人と家族の意見が衝突することはよくあり、介入が難しいと思うことも多いですが、対話の中でのアシストの仕方などとても勉強になりました。

看護師の関わり④<家族間の対話のサポート>

- 【情報共有と選択肢の整理】
 - ・Aさんと家族メンバーが同じ説明を共有する
- 【意思決定のサポート】
 - ・Aさんの意思を尊重する
 - ・Aさんが意思を表明できる環境をつくる
- 【家族への配慮】
 - ・家族の立場や思いを肯定的に受け止める
- 【コミュニケーション技術の活用】
 - ・傾聴・質問・介入など
 - ・共通の価値観を明確化する



(講義資料抜粋)

- ・ 時間も適度で、勉強になりました。毎年開催してることを知りませんでしたので、どのようなテーマになるかは分かりませんが、興味深いです。また、方向音痴なもので、キャンパスの外側でご案内の方がおられ、良かったです。
- ・ 基礎から事例まで、勉強させていただきました。ありがとうございました。

IV. まとめ

本年度の家族看護フォーラムでは、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）における家族支援をテーマに、基礎的理解から実践事例まで多面的に学ぶ機会を提供した。参加者アンケートでは、講義・家族支援専門看護師の実践事例紹介のいずれも「興味深かった」「大変興味深かった」という回答が多数を占め、家族看護の重要性やACP支援の具体的な視点に対する学習意欲の高さがうかがえた。また、日々の臨床で直面する家族との対話の難しさや調整の課題に対し、「すぐに実践に活かしたい」「家族の思いをより丁寧に引き出したい」といった前向きな声も多く、学びが臨床実践に直結していることが確認できた。今後も家族構造の多様化や意思決定支援の複雑化に対応するため、家族看護の視点を継続して深める学習機会の提供が求められる。今年度の成果を次年度以降の活動に活かし、より実践に根ざした家族支援の充実を図っていきたい。



会場の様子



家族への看護を考える会メンバー

府民健康支援部門「まいど！ウェルネスリンクあべの」 金塚地区タウンミーティング

田中健太郎、和木明日香、古山美穂、篠原真咲、三輪恭子

I. 開催概要

タイトル：金塚ってどんなまち？一緒に話そう、これからのこと

～地域と大学で築く健康的なまちづくりタウンミーティング～

日 時：2025年8月30日（土）15:00～17:00

場 所：大阪公立大学 看護学部C棟1階多目的スペース

II. 趣旨

金塚地区は子どもから高齢者まで多世代が暮らす地域であり、住民が安心して自分らしく暮らし続けるためには、身近な環境やつながり、健康づくりへの支援が重要となっている。本タウンミーティングは、住民が自由に意見を出し合いながら地域の魅力や課題を共有し、健康的な暮らしを支える地域のあり方を共に考える場とする。

III. 活動目的

金塚地区に暮らす住民が、それぞれの思いや気づきを出し合いながら、地域の課題や魅力、健康的に暮らせる地域のあり方について自由に語り合う対話の場とする。また、教員は地域の声を引き出し、健康や福祉の視点から“次の一歩”をともに考えながら、地域と大学の協働によるまちづくりの可能性を探ることを目的とする。

IV. 活動目標

1. 地域の暮らしやすさ・健康課題・地域資源に関する住民の声をだし合い、共有することで、住民同士の理解やつながりを深める。
2. 住民一人ひとりが「気になっていること」「困っていること」「こうなったらいいな」と思うことを言葉にし、地域の現状や課題、希望を“見える化”する。
3. 参加者同士で地域での健康づくりや支え合いのあり方について考え、協働できる実践の糸口を見出す。
4. 高齢者や子育て世代など、多様な住民の声をもとに、健康的な暮らしを支える地域のあり方や、金塚地区における健康的なまちづくりの方向性をともに考える機会とする。

V. 事前調整と参加者募集

2025年6月9日（月）に金塚連合振興町会の代表者6名と開催日程等について調整を行なった。その後、参加者募集のチラシを作成し、町会掲示板等を通じて周知を行い、参加者を募った。

VI. 活動内容

1. タイムスケジュール

時間	内容	担当・形式 ※カッコ内は担当者
15:00～15:05	開会の挨拶	主催者より挨拶（旗持） ※看護学部やセンターの役割等に関する
15:05～15:20	趣旨説明 地域の現状共有 グラウンドルールの共有	開催の目的・流れの説明（田中健） 健康支援部門より、金塚地区の地域構成・現状等の紹介
15:20～15:25	進行説明	4～6人／1グループ（G）に教員1名がつく形式 記録・模造紙活用の流れを説明
15:25～16:15	グループ討議（50分） ※7G	・参加者が自由に話しあい、教員がその場で付箋にキーワードを書きながら、模造紙に分類・貼付し、参加者自身も付箋に書きながら討議を進める。
16:15～16:50	グループ発表 全7G 各ファシリテーターより5分程度で発表	・各グループの代表者が討議の内容を発表し、共感・気づきを全体で感じる時間とする。 ・まとめ（田中健）
16:50～17:00	閉会の挨拶 記念撮影	（三輪）
17:00～	アンケート記入 自由歓談	・アンケートを各グループに配布（佐々木・各グループ教員）感想や追加意見の記入、住民同士の交流、教員との意見交換など ・アンケート受付で回収 ・記念品として本学ボールペンを配布

2. 結果

2025年8月30日に実施した金塚地区タウンミーティングには、申込者38名のうち36名が参加し、1グループ4～6名の構成で7つのグループに分かれてグループ討議を行なった。

グループ討議では、教員がファシリテーターとして進行を担い、参加者が発言しやすい雰囲気づくりに努めた。その結果、開始当初から参加者による積極的な発言がみられ、それぞれの立場や経験を踏まえた多様な意見が共有された。討議は円滑に進行し、地域の強みや課題について具体的な視点から意見交換が行われた。発言は特定の参加者に偏ることなく、相互に意見を補足・発展させる場面もみられ、活発な対話が展開された。なお、グループ討議で出た意見については、下記の通りであった。

【地区の良いところ】

1) 交通利便性・生活環境

- ・交通アクセスが良い、スーパーや病院が多い
- ・再開発により整備された街並み、直線道路や歩道、電柱がなく見通しが良い
- ・中央公園や緑地があり、自然を感じられる

2) 住民の取組・交流

- ・清掃活動や植え込みの整備など自主的な美化運動
- ・食事会・踊り・囲碁・コーラスなど多様なイベント
- ・Q's モールやイベントを通じた利便性・交流

【地区の課題】

1) 高齢化・孤立

- ・独居高齢者の増加、孤独死事例
- ・公共サービスや支援を利用しにくい高齢者の存在

2) 住民同士のつながり不足

- ・マンション内で交流がない、分譲と賃貸の文化差
- ・子ども会や立ち話などの交流が減少、情報共有不足
- ・外国人住民とのコミュニケーションやルール共有の難しさ

3) 子ども・子育て世代

- ・子どもの数が少ない、私学通学が多く地域の交流が薄い
- ・学校規模の縮小、学年1クラスのみ
- ・若い世代が地域情報に関心を持たない

4) 防災

- ・高層マンションで停電時に孤立、備蓄は個人任せ
- ・避難所の液状化リスク、冷房設備不足
- ・避難区域指定が現状に合っていない

【イベント・取り組みに関する意見】

1) 現状の課題

- ・同じ人が繰り返し参加、若い世代や男性の参加が少ない
- ・周知不足、回覧板の廃止により情報が届かない
- ・準備負担の大きさから盆踊り大会が中止

2) 提案

- ・マンション出張型の健康相談や「まちの保健室」
- ・子ども食堂（宿題サポート・高齢者との交流含む）

- ・e スポーツ大会、若者が興味を持つ企画
- ・盆踊り復活、多世代交流型イベント
- ・スマホ教室や ICT を活用した情報共有

【看護学部・大学に期待する役割】

- 1) 「となりの保健室」や健康相談など、大学生・大学院生が地域に出向く活動
- 2) 小学校への出張授業（健康・命・認知症・がん教育など）
- 3) 防災訓練での大学・病院との協働、災害時の避難所機能と合わせた支援 等

タウンミーティング実施後のアンケートでは、36名の参加者の内、35名から回答を得た（回答率97.2%）。回答者の年齢層は、20代が2名（5.7%）、30代が1名（2.9%）、40代が3名（8.6%）、50代が3名（8.6%）、60代が5名（14.3%）、70代が15名（42.9%）、80代以上が6名（17.1%）であり、70代の参加が最も多かった。性別は男性11名（31.4%）、女性24名（68.6%）であった。

参加のきっかけについては、「町会からの案内」が28名（80.0%）と最も多く、その他は「友人・知人」1名（2.9%）、「ポスター」1名（2.9%）、「金塚地域ホームページ」1名（2.9%）、「その他」4名（11.4%）であった。「その他」の内訳には、まちづくりセンターや100歳体操の場での案内、町会長からの紹介、大学教員からの案内が含まれていた。

参加者の満足度に関する設問では、「参加者同士のつながりを感じることができたか」については35名全員（100%）が肯定的な回答を行い、そのうち25名（71.4%）が「とても感じた」、10名（28.6%）が「ある程度感じた」という回答であった。「金塚の現状や課題、希望について共有できたか」では、20名（57.1%）が「とても共有できた」、15名（42.9%）が「ある程度共有できた」と回答した。

また、「大学との協働につながるきっかけを見つけることができたか」では、18名（51.4%）が「十分に見つけられた」、16名（45.7%）が「いくつか見つけられた」、1名（2.9%）が「あまり見つけられなかった」という内訳であった。「健康的なまちづくりの方向性について考えるきっかけになったか」については、18名（51.4%）が「大いになった」、16名（45.7%）が「ある程度なった」と回答し、未回答が1名（2.9%）であった。

自由記述では、良かった点として「地域の課題や良い点を知ることができた」「他グループと共通の意見を確認できた」「大学が地域に関心を持っていることが分かった」「ファシリテーターの進行で話しやすかった」などの意見が多く寄せられた。また、「住民の声を直接聞くことができた」「なごやかな雰囲気意見交換ができた」「年代による違いや考え方を知ることができた」といった記載も認められた。

今後参加したい活動としては、「大学とのコラボイベント」「防災イベント」「地域勉強会」「世代間交流イベント」が挙げられたほか、「盆踊り」「ふれあい喫茶」「もちつき」「お花見」など地域行事の復活や継続を望む声が寄せられた。

大学への期待としては、「健康講座」「介護に関する学びの機会」「地域行事への参加」「まちの保健室のような相談の場の設置」「学生の地域活動への参画」などが挙げられた。また、「地域住民との交流機会を継続してほしい」「大学生の力を地域活動に活かしてほしい」といった意見もあった。

VII. 評価と今後の課題

本タウンミーティングは、再開発により生活環境が整備され、多様な世帯が暮らす金塚地区において、住民が自らの暮らしを語り合い、健康的なまちづくりの方向性を共有する初めての試みであった。アンケートでは参加者の97%が「つながりを感じた」と回答しており、生活背景や居住形態の違いに触れながら意見を交わす場となったことは、地域における新たな関係づくりの契機となったといえる。

特に、討議を通じて「交通や生活の利便性」「地域の自主的な美化活動」「多様なイベント」といった強みと、「独居高齢者の孤立」「子育て世代の地域離れ」「防災リスク」などの課題が同時に語られた点は、金塚地区が有する暮らしの利便性と、人と人とのつながりをいかに両立させていくかという課題を示すものとなった。このような現状を踏まえ、大学と地域が協働しながら、住民が互いの立場や背景を理解し、支え合う仕組みを共に考えていくことの重要性を再確認する機会となった。そのため、本タウンミーティングで得られた意見や気づきは、今後の地域づくりや大学の連携活動の方向性を検討するうえでの基礎資料となるとともに、住民の声を反映した新たな協働の取り組みへと発展させていくための貴重な契機となったと考えられる。

また、住民が挙げた意見の多くが「まちの保健室」「健康講座」「学生の地域参加」「防災訓練での協働」など、大学との具体的な協働提案であったことは、地域住民が大学に専門的な共助の担い手としての役割を期待していることを示している。これらは単なる支援要請ではなく、大学と地域が対等なパートナーとして地域課題を共有し、解決に向けてともに考える関係の形成を志向するものであり、大学が地域の課題解決や人づくりに寄与するという公立大学としての使命や方向性にも合致する。実際、住民の自由記述では「大学が地域に関心を持っていることが分かった」「学生と一緒に活動したい」といった声がみられ、大学と地域との間に相互理解と信頼の基盤が形成されつつあることがうかがえた。

一方で、参加者の約8割が町会経由での参加であり、若年層や現役世代、外国人住民の参加に限られた点は、地域の多様な層が意見を共有するうえでの課題として明らかになった。これまでの成果を踏まえると、今後はより幅広い住民が参加しやすい仕組みづくりが求められる。特に、回覧板の廃止などにより地域内での情報共有の機会が減少していることや、マンション居住者間の交流不足といった現象は、都市型地域に共通する課題といえる。こうした現状を踏まえると、対面での交流に加え、SNSや地域ポータルサイトなどICTを活用した情報発信や意見交換の仕組みを整えることが、住民の参加を促す一つの方策になり得る。大学としても、地域の実情に応じてオンラインと対面を組み合わせた多様な交流の形を模索し、地域とともに開かれた対話の機会を整えていくことが今後の課題である。今回のタウンミーティングを通じて、住民が互いの

意見を共有し、地域の将来を考えるきっかけが生まれたことは大きな成果であり、今後はこうした取り組みを継続的な地域づくりの仕組みへと発展させていくことが期待される。

今後は、今回得られた意見や提案をもとに、地域と大学が引き続き連携し、具体的な取り組みへと展開していくことが求められる。その際、地域が自らの強みを活かしながら、大学が持つ専門的な知見を地域の実情に応じて活用し、互いの役割を尊重しつつ課題解決に向けて取り組むことが重要である。また、今回の対話の場で生まれた関心やつながりを継続的な地域活動へとつなげていくことが、金塚地区の持続可能なまちづくりの推進に寄与すると考えられる。本タウンミーティングは、その第一歩として、地域と大学が課題を共有し、連携の方向性を明確にすることができた意義のある取り組みであったといえる。

※ タウンミーティングの様子については、地域コミュニティ新聞「アベノタウン」ならびに、金塚地区の地域誌「金塚地域だより 11月号」に掲載されました。

※ 本活動にご協力いただきました、地域住民の皆様、関係機関の皆様に深く感謝申し上げます。



阿倍野区金塚地区における健康教室

和木明日香 三輪恭子 篠原真咲 古山美穂 田中健太郎

I. 活動目的

2025年度より、看護学部では新看護学舎が竣工し稼働を開始した。羽曳野・阿倍野の両キャンパスに分かれていた教員・学生組織も阿倍野に集約された。これを受けて、府民健康支援部門では、これまで実施されてきた活動の継続に加え、新キャンパスにおける看護学部の地域貢献活動を推進していくため、本年度はその活動の基盤形成のために活動の方向性を模索し、検討を行ってきた。

その活動の一環として、部門事業として学舎に隣接する阿倍野区金塚地区にて開催される月1回の地域勉強会の機会に合わせて、3回の健康教室を実施した。

本健康教室の目的は、①地域住民の健康維持増進に関する知識の提供、②地域住民のヘルスリテラシーの醸成、③今後の活動展開のための地域の現状把握である。本稿では、金塚地区における健康教室の実施状況を報告し、次年度以降の活動の方向性や課題について検討する。

II. 活動内容

1. 参加者

阿倍野区金塚地区在住の地域住民の皆様

2. 場所

〒545-0051 大阪府大阪市阿倍野区旭町3丁目3-18 金塚地域集会所
金塚ふれあい会館

3. 実施概要

	日時	タイトル	担当者
1	2025年7月2日(水) 10時～11時	縁起でもない話をしよう～もしばなゲームで考える“わたしの大切なもの”～	三輪恭子 (在宅看護学)
2	2025年9月3日(水) 10時～11時	コケない力を育てよう!～フットプリントで見つめなおす自分の足～	篠原真咲 (在宅看護学)
3	2025年11月5日(水) 10時～11時	人生100年時代 介護の受け方・使い方	庄野仁登 (先進ケア科学地域包括ケア科学博士課程大学院生)

4. 募集方法

チラシを作成し、金塚連合振興町会の役員の皆様のご協力をいただき、町内で掲示を行った。また、広報誌などにも情報を掲示していただき、地域住民への周知を行った。

5. 参加費

無料

Ⅲ. 活動結果

1. 縁起でもない話をしよう～もしばなゲームで考える“わたしの大切なもの”～
(写真 1, 2)

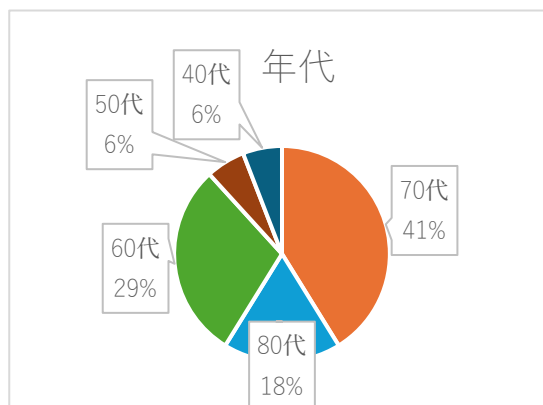
1) 開催日時：2025年7月2日（水）10：00～12：00

2) 参加者アンケート結果

参加者数：20名 アンケート回答者数：17名

(1) 年齢

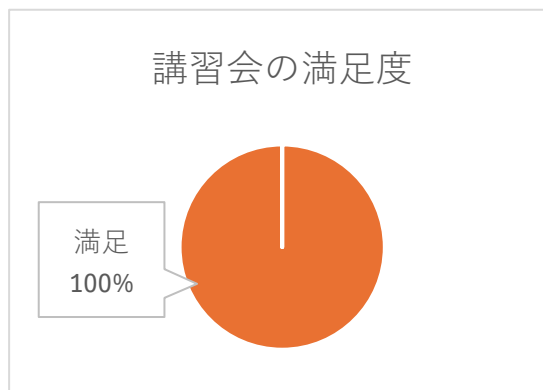
年代	回答数	比率
70代	7	41%
80代	3	18%
60代	5	29%
50代	1	6%
40代	1	6%
総計	17	100%



(2) 設問別結果

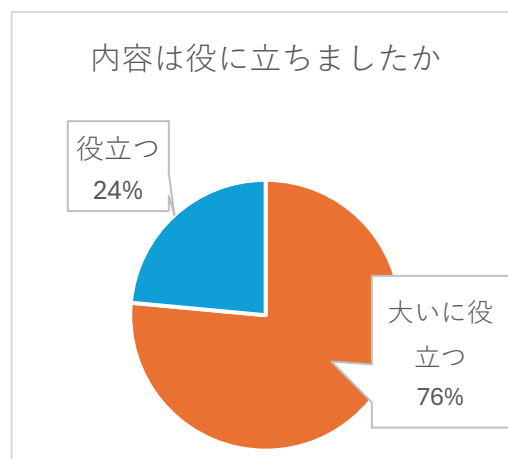
① 講習会には満足しましたか？

満足度	回答数	比率
満足	17	100%
総計	17	100%



② 講習会の内容は役に立ちましたか？

内容	回答数	比率
大いに役立つ	13	76%
役立つ	4	24%
総計	17	100%



(3) 今後の要望やご意見（アンケート結果より一部抜粋）

- カードを使ったワークが話しやすく、楽しく、考えるきっかけになった。
- 普段向き合わないテーマについて考える良い機会になった。
- 他の人の価値観や思いを共有できてよかった。
- カードに内容が書かれているため、話しやすく理解しやすかった。
- 自分の考えや気持ちを見つめ直すきっかけになった。
- 他の参加者の価値観を知ることができ、有意義だった。
- カルタのようで、楽しみながら参加できた。
- 将来について考える機会になった。
- このような学びの場を今後も継続してほしい。
- 説明の声をもう少し大きくしてほしい。
- 30～40代の参加も促し、より幅広い層で実施してほしい。
- 年1回など、定期的に繰り返し開催してほしい。
- 手話講座など他の企画もあるとよい。

2. コケない力を育てよう！～フットプリントで見つめなおす自分の足～（写真3）

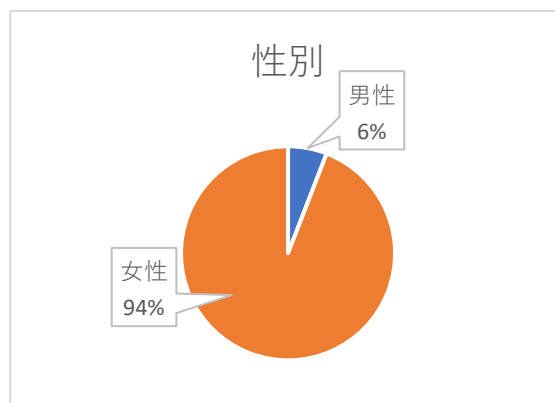
1) 開催日時：2025年9月3日（水）10時～11時

2) 参加者アンケート結果

参加者数 36名、アンケート回答者数 34名

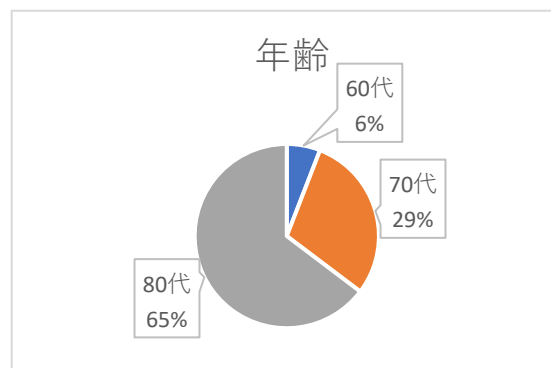
(1) 性別

性別	回答数	比率
男性	2	6%
女性	32	94%
総計	34	100%



(2) 年齢

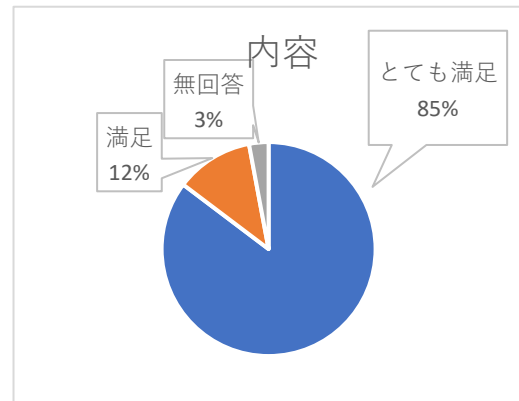
年齢	回答数	比率
60代	2	6%
70代	10	29%
80代	22	65%
総計	34	100%



(3) 設問別結果

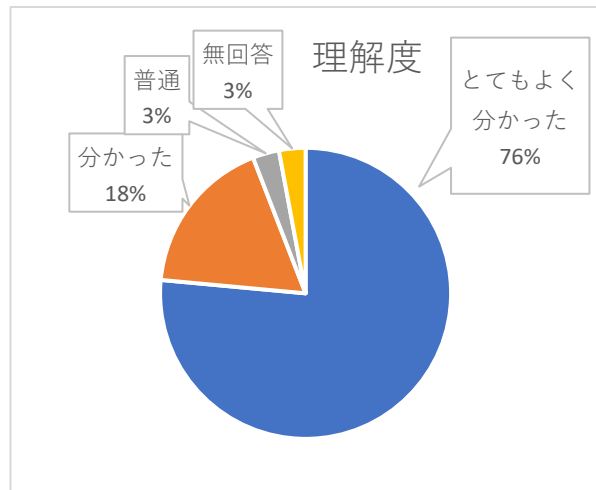
① 今回の勉強会の内容はいかがでしたか？（満足度）

内容	回答数	比率
とても満足	29	85%
満足	4	12%
無回答	1	3%
総計	34	100%



② 今回の勉強会について教えてください。（理解度）

理解度	回答数	比率
とてもよく分かった	26	76%
分かった	6	18%
普通	1	3%
無回答	1	3%
総計	34	100%



(4) 今後の要望、印象に残ったことなど（アンケート結果より一部抜粋）

- とてもわかりやすく、大変勉強になりました。又このような会合を取っていただきたいです。
- 足を意識するようになりました。足裏体操・歩き方・マッサージなどを今後も続けたいです。
- 鍛え方の講習は多いけれどほぐし方を学べたのが良かった。できれば足全体のほぐし方があればもっとよかった。
- 毎日の継続で健康を保持したいです。アイデアをいただきありがとうございます。
- 型取りで、自分の足型がわかりました。はじめて見ました。土ふまずが有って良かった。
- 靴の選び方や足のサイズ、形について学べて参考になった。
- ゴルフボールを使った足つぼが良かった。持ち帰りできたのも嬉しい。
- 今後も年に1回は同様の催しを開催してほしい。骨密度の測定等してみたい。

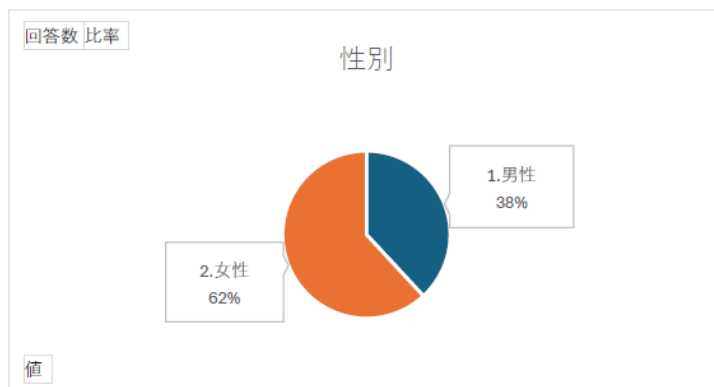
3. 人生100年時代 介護の受け方・使い方 (写真4)

1) 開催日時：2025年11月5日(水)10時～11時

2) 参加者アンケート結果 参加者数21名、回答者数21名

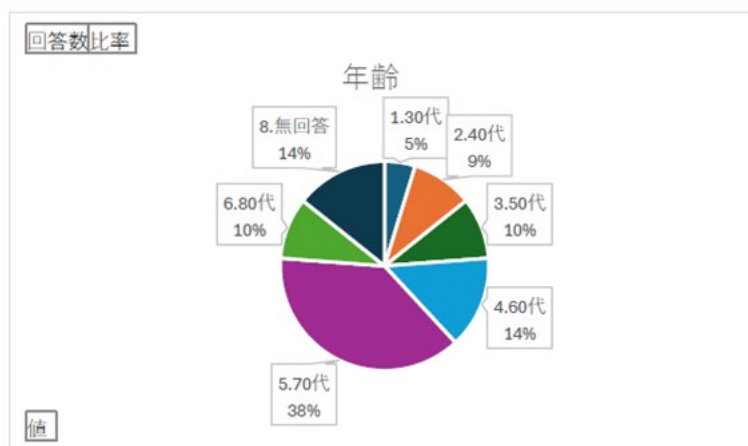
(1) 性別

性別	回答数	比率
1.男性	8	38%
2.女性	13	62%
総計	21	100%



(2) 年齢

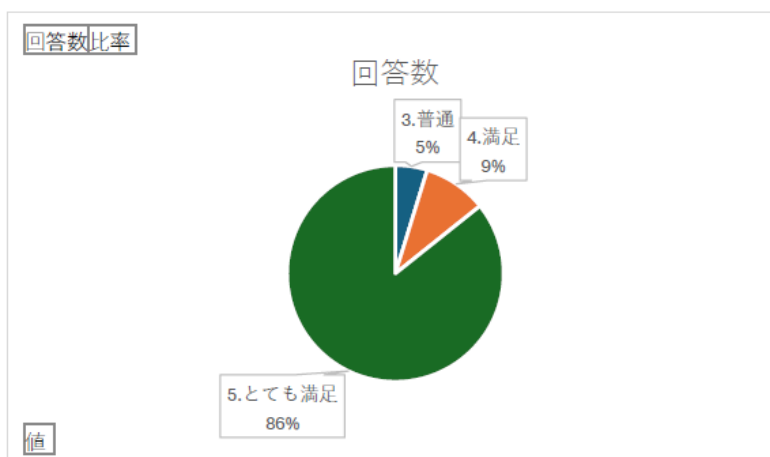
年齢	回答数	比率
1.30代	1	5%
2.40代	2	10%
3.50代	2	10%
4.60代	3	14%
5.70代	8	38%
6.80代	2	10%
8.無回答	3	14%
総計	21	100%



(3) 設問別結果

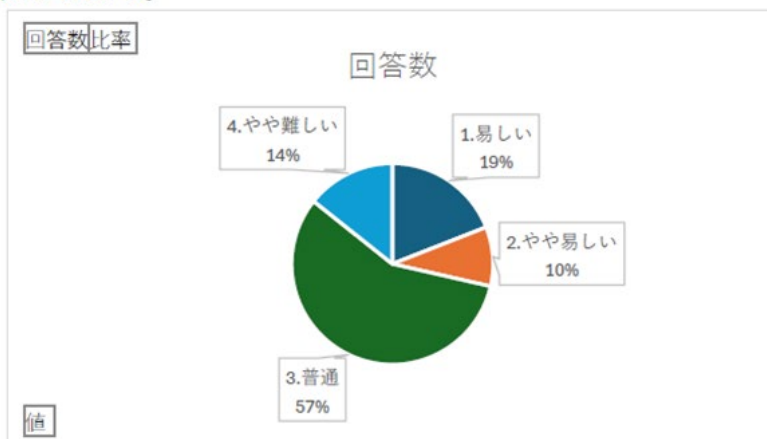
(1) 今回の勉強会の内容はいかがでしたか？

内容	回答数	比率
3.普通	1	5%
4.満足	2	10%
5.とても満足	18	86%
総計	21	100%



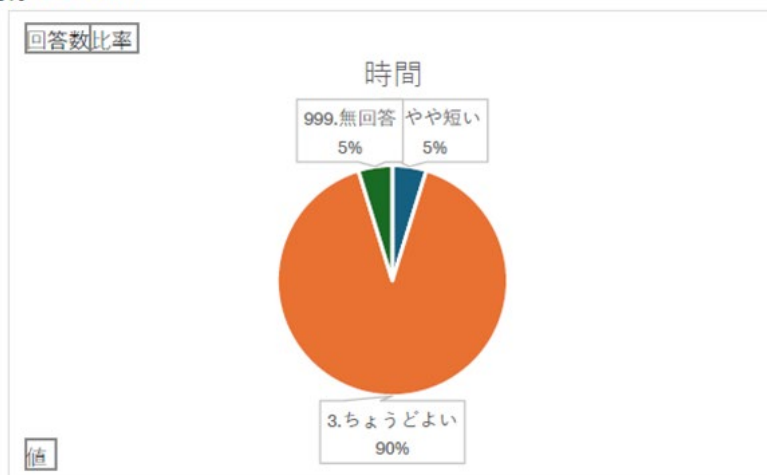
(2) 今回の勉強会の難易度について教えてください。

難易度	回答数	比率
1.易しい	4	19%
2.やや易しい	2	10%
3.普通	12	57%
4.やや難しい	3	14%
総計	21	100%



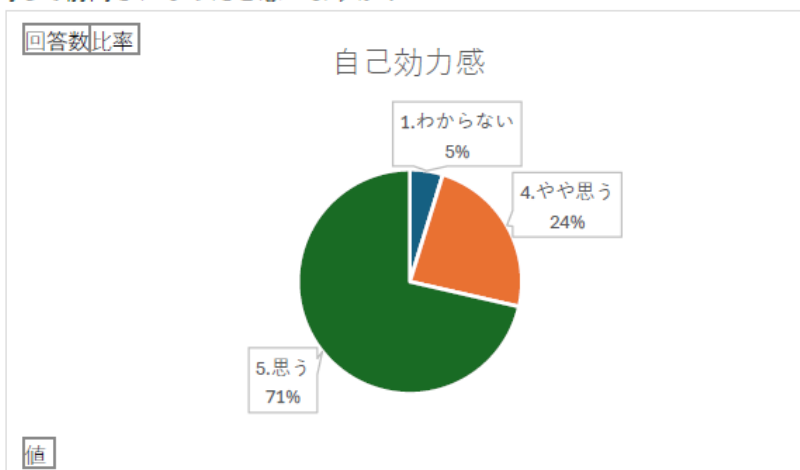
(3) 今回の勉強会の時間（長さ）は適切でしたか？

時間	回答数	比率
2.やや短い	1	5%
3.ちょうどよい	19	90%
999.無回答	1	5%
総計	21	100%



(4) 今回の勉強会をうけて、介護に対して前向きになったと思いますか？

自己効力感	回答数	比率
1.わからない	1	5%
4.やや思う	5	24%
5.思う	15	71%
総計	21	100%



(5) その他（アンケート自由記載より）

- 制度の話でなく、本当の相談への入口で、講演自体とてもよかった。ワークショップで様々な立場で話が出ていて、現在介護中の方も参加されていて、後で”色々話がきけてよかった”と感想を話されていたのが印象的だった。
- 寸劇があることでわかりやすくなっていたと思います。難しくなりすぎず、介護等の支援につながりやすくなると思いました。
- 立場によって考え方がちがうと思う。
- 健康で長生きできる対応をすべきだが、個人差があるので大変だと思う。
- 介護をするようになり自分の体力がとても必要だと解りました。
- 現行の介護事例はともかく煩雑で大変な思いがある。
- 介護にむかう心がまえが少し楽になりました。最後は、北部包括がよくわかった。

IV. 活動の評価

1. 参加者の状況

各回とも女性の参加者が多くを占めた。各回実施後の金塚連合振興町会役員の皆様と担当者などとの振り返りでも、女性の参加者が多いことが指摘されていた。男性の参加者を増やせるようなテーマの希望も出ている。参加者の年齢分布は、60歳代以上の参加者が多くを占めた。テーマ設定が高齢者の健康や生活に関連するものであったためと考えられる。

また健康教室には複数回参加している参加者もみられ、各回には社会福祉協議会の担当者、地域包括支援センター担当者などの出席もあった。

2. 各教室の満足度や理解度

各回の満足度は、「とても満足」が80%台と、高い満足度を得ることができている。アンケート自由記載からも、内容に満足している記載が多く見られた。年齢分布も高齢者が多く、高齢者の健康に関する日常的な関心に近いテーマ設定だったためと考えられる。また、理解度についても、80%以上の参加者が「理解できた・易しい、(難易度は)普通である」と回答していた。実施時間の長さについては、1回のアンケート結果のみではあるが、90%の参加者が「(1時間は)ちょうどよい」と回答しており、多くの参加者にとって負担のないものであったと考えられる。

V. 今後の展望と課題

1. 今後の展望

本健康教室は、各回ともに満足度・理解度が高く、特に参加者の多くを占めた高齢者にとって、日常生活に即したテーマ設定が関心と合致していたことが、高い評価につながったと推察される。金塚地区は高齢者が多く居住し、18棟のマンションから構成されているという特徴がある。次年度以降の健康教室の実施については未定であるが、地域特性や住民のニーズを踏まえたテーマ設定を行っていく必要がある。また2025年8月には、金塚地区で地域住民とのタウンミーティングを実施している。その際に得られた住民の健康や生活に対するニーズや困りごとを踏まえてテーマや健康教育の実施形態も検討し、地域に住む高齢者の生活形態や住民のニーズに沿う活動を展開していきたい。

さらに、健康教室の実施には、金塚連合振興町会の役員の皆様のご協力が得られたこと、社会福祉協議会や地域包括支援センターの関係者の参加があったことから、地域の関係機関と連携した取り組みとしての基盤を形成することができていると考えられる。今後はこれらの関係機関との連携を一層強化し、地域全体で住民の健康を支える体制づくりにつなげていくことが望まれる。

2. 今後の課題

1) 男性の参加・地域住民の参加について

健康教室への男性の参加が少なく、参加者は女性に偏る傾向がみられた。今後は、男性の参加を促進するため、関心を引きやすいテーマ設定や開催方法の工夫が必要である。

また、金塚地区はマンションを中心とした居住形態であり、住民同士のつながりが比較的希薄になりやすい地域特性がある。そのため、従来型の周知方法や開催形態のみでは参加が広がりにくい可能性がある。地域イベントと連動した健康教育のアウトリーチ実施や、就労世代が参加しやすい日時設定などの工夫を行い、多様な層の住民参加を促進していく必要があると考える。

2) 地域における継続的な健康教育活動の実施について

本活動は、教員の教育・研究活動と並行して実施していく必要がある。地域に受け入れられ、社会貢献活動を継続的に行っていくためには、顔の見える関係性の構築とともに、多くの教員の参画が求められる。

社会貢献活動は大学教員の重要な役割の一つとして位置づけられつつある。多様な地域住民のニーズに応じた効果的な活動を実施するためには、教員の多様な専門性を活かし、継続的な参加を促進する体制づくりが必要である。

また、学生が地域において健康教育活動に参加することは、地域住民の生活や健康状態を理解する機会となるとともに、実践的学習の場ともなりうる。臨床経験の機会が限られる中で、地域における保健活動は学生にとって貴重な学習機会となる可能性がある。今後は、本活動を教育の一環として位置づける取り組みを検討していくとともに、地域活動に関心のある学生の参加を促進していくことが望まれる。

謝辞

本活動に際し、ご参加いただいた阿倍野区金塚地区の住民の皆様、健康教室の実施をサポートして下さった金塚連合振興町会役員の皆様方に、心より感謝申し上げます。



「家族と一緒に過ごす」
わたしにとって、「とても重要」。

写真 1 もしばなゲームの様子①

「お金の問題を整理しておく」
わたしにとって、「ある程度重要」。



写真 2 もしばなゲームの様子②



足の「3本のアーチ」とは？

写真 3 フットプリント講義の様子

介護制度とは？



写真 4 人生 100 年時代 介護の受け方・使い方：講義の様子

羽曳野地区健康教室 とよりの保健室

篠原真咲・三輪恭子（実践看護科学領域 生活支援看護科学領域 在宅看護学）

I. 背景と活動目的

我が国では、少子高齢化および地域課題の複雑化を背景に、住民および多様な主体が相互に支え合う地域共生社会の実現に向けた制度改革が進展している。厚生労働省は社会福祉法の改正（平成29年・令和2年）を通じ、市町村による包括的な支援体制の整備を推進し、重層的支援体制整備事業の創設等により地域における多分野連携の強化を図っている（厚生労働省、2025）。

このような政策的動向を背景に、看護職も従来の制度的枠組みを超えて、地域の実情に即した柔軟な支援活動を展開している。とりわけ訪問看護ステーションや地域相談窓口、交流スペース等を基盤とした、住民との直接的関わりを通じた健康相談・予防的支援・生活課題への対応など、多面的な実践が注目されている（日本看護協会、2025）。その代表例として、日本看護協会が1996年より提唱・推進する「まちの保健室」および、新宿区の大規模団地を拠点に全国へ広がった「暮らしの保健室」（秋山ら、2019）が挙げられる。これらの活動は、住民主体の生活支援活動の支援や地域特性に基づく健康支援の実践を通じ、看護職の専門知識を地域に還元する新たな看護実践として位置づけられている（藤田ら、2022）。

2022年度より本学看護実践研究センターの活動助成を受けて実施してきた「とよりの保健室」の活動を報告する。目的は地域住民の健康増進と交流の場の促進である。

II. とよりの保健室の活動内容

1. 活動拠点

活動拠点は、羽曳野市で介護事業を展開する山勝ライブラリが2022年9月に開設したレンタルスペース「ライブラリとより」である。同施設は、隣接するカフェ「FIKA 三丁目」と連動し、高齢者を中心とした地域交流の場として機能している。閉店した隣接店舗の跡地を再活用する形で多目的空間として整備され、住民に“とより”で伴走する思いを込めて「とよりの保健室」と命名した。

2. 活動内容

1) 活動の概要

活動は地域住民の健康増進と相互交流の促進を目的に、原則月1回・1～2時間実施した。企画・運営は在宅看護学分野の教員・学部生・大学院生・修了生、看護職有志が担い、健康や暮らしに関するテーマで話題提供を行い、住民が主体的に意見交換できる構成とした。大学院生（実践看護研究コース）は企画書作成・運営を演習として担当した。

参加者はカフェでのチラシ配布（以下参照）を通じて募集し、年齢・性別・疾患の有無を問わず、定員は10名（一部8名）とし、誰もが気軽に参加できる形式とした。

2) とよりの保健室の開催内容

開催月日	テーマ	担当者
2025年5月9日(金)	フレイル予防は食事から	坂口(M2)、篠原、三輪
2025年6月27日(金)	うんこさん保健室	鏡畑・山本・小林・篠原・三輪
2025年7月8日(火)	足を看る！いつまでも自分の足で歩くために(フットケア)	牧浦(4年生)・森本(4年生)・篠原・三輪
2025年8月7日(木)	楽しく動いて夏を元気に(脱水予防)	坂口(M2)、篠原、三輪
2025年9月19日(金)	うんこさん保健室	鏡畑・山本・小林・篠原・三輪
2025年10月9日(木)	睡眠の保健室	中川(M1)・盛上(M1) 篠原・三輪
2025年11月5日(水)	からだとあたまのストレッチ	盛上(M1)・中川(M1)・篠原・三輪
2025年12月9日(金)	うんこさん保健室	鏡畑・山本・小林・篠原・三輪
2026年1月7日(水)	声を育てよう！	篠原・三輪
2026年2月12日(木)	尺八の音色で足湯と足のマッサージ	江口(M2)・盛上(M1)・佐々木(事務)・篠原・三輪
2026年3月6日(金)	うんこさん保健室	鏡畑・山本・小林・篠原・三輪

3) 参加者の状況

毎回、ほぼ10名定員の満席であった。一部、定員を8名に制限して実施する会もあった。2025年5月から2026年2月までの10回開催までで参加者の延べ総数は73名であった。男性は15名、女性は58名であった、平均年齢は、70.9歳であった。市内在住の人が95%でその内43%の方が徒歩または自転車で来場されていた。

参加者の満足度は、とても良かったが95%であり、良かったが5%であった。内容の理解度はよく良かったが98%であり、まあまあが2%であった。参加者への周知は、喫茶店FIKAに訪れる住民に対しての店長がちらしを用いて広報してくださった。参加者のリピート率は80%であったが、テーマによって初参加される方もおり、ちらしの内容で住民が参加を決めていることが分かった。特に、これまで実施したことのないテーマの際には、新規参加者が多い傾向があった。参加者は、顔なじみの関係が出来ており、毎回楽しみに参加していたが、喫茶

店 F I K A での談話も日常生活の一部となっていることが伺えた。

今年度は、新たな試みとして参加している住民の方でマジックを趣味としている方がとなりの保健室で披露し、参加している他の住民にもマジックができるようになって欲しいという思いでマジックのネタを披露して下さった。さらに、尺八を幼少時から実施している方にも保健室での演奏を披露していただき、参加者と共に音に癒されて有意義な時間を過ごすことができた、

住民からの提案で住民個々の特技を披露する場、さらにそれを教えてもらった側が練習を繰り返し、できるようになってほしいという希望があり、住民同士のつながりが強化され、醸成されてきていた。

III. 評価と今後の課題

今年度は、11 回の開催となり住民同士のつながりがこれまで以上に強化された、2022 年度から開始したとなりの保健室活動の展開は大きく三段階に整理されたと考える。

1) 第 1 段階：健康教育中心期

活動開始当初は、専門職が中心となり健康教育を提供する形式であった。参加者は講義を聴講する姿勢が強く、専門職主導型の構造であった。

2) 第 2 段階：関係形成期

防災やフットケアといった生活実践に直結するテーマを契機に、普段参加の少なかった男性参加者の参加が増加した。参加者同士の会話が広がり、テーマに対する関心を共有する姿が見られた。また、雑談や自由な意見交換が増え、専門職が話す時間よりも参加者同士の対話時間が長くなる場面も確認された。

3) 第 3 段階：住民主体期

2025 年 9 月頃からは、住民による特技披露や自主的な企画が見られるようになった。参加者同士が互いに声をかけ合い、誘い合う様子も観察された。一部の参加者は、マジックなどの特技を披露するために自主的に練習を重ねるなど、主体的な活動が広がった。



《マジックを披露する住民さん》

活動場所が喫茶店に隣接していたこともあり、終了後の自然な交流が生まれ、心理的安全性の高い場が形成された。

今後の課題は、住民の集いの場である喫茶店 F I K A の店主と共に、専門職が住民の主体性を引き出していき住民主体の居場所の更なる醸成に繋げていき、住民同士の交流を深め、住民同士が助け合い、支え合いながら自分らしい生活を継続できるよう支援していく。

《2025年度広報用ちらし（5月～2月）》

となりの保健室

しっかり食べて
フレイル予防は食事から

定員：先着10名様まで



フレイルの基本を学びましょう
簡単にできるフレイルチェックで自分の体の状態を知りましょう
フレイルを防ぐ栄養のコツをお伝えします

令和7年5月9日金曜日 14:00-15:00
ライブラリとなり (羽曳が丘3丁目5の38)

最近、ちょっと体力が落ちてきたな
と感じることはありませんか。

フレイルとは、加齢によって心と体の元気が少しずつ弱
っていき状態のことです。病気ではありませんが、放
っておくと、転びやすくなったり、疲れやすくなったりし
ます。しっかり食べて、適度に運動することがフレイル
予防のポイントです。

企画・実施 坂口晴美・三輪恭子・篠原真咲
お問い合わせ Mail: sr24816r@st.oumu.ac.jp
大阪公立大学大学院 看護学研究科 在宅看護学

2025年度 となりの保健室

第10回
うんこさん
保健室

うんこさんは、身体からの「大きなお便り」。
第1回は、うんこさんを観察すること、「観便」
についてお話します。
みなさんで楽しくお話ししましょう♪

うんこさんワーク・個別相談の時間あります。

看護師が
行います♪

2025.6.27 金
14:00～16:00

場所：ライブラリとなり
(羽曳が丘3丁目5の38)

◎お申込み（先着10名様）：
FIKA（羽曳が丘3丁目）でのお申込み、
もしくは、下記連絡先までご連絡下さい。

POOマスターはびきの
鏡畑麻子・山本初美・小林美恵子・篠原真咲・三輪恭子
hai-nse-yz1221@hotmail.co.jp (山本)

大阪公立大学大学院看護学研究科 在宅看護学

2025年度第2回
となりの保健室

足をみる！
いつまでも自分の足で
歩くために

2025年7月8日(火)
14:00～16:00
ライブラリとなり

お申込みは、FIKA（羽曳が丘3丁目）までお
願いします。

参加時は、靴下など素足になりやすい服装でお
願いします。

大阪公立大学 看護実践研究センター府民健康支援部門
篠原・和木・田中・古山・三輪

となりの保健室

楽しく動いて
夏を元気に

パンダに学ぶ夏バテ対策のポイント

2025年8月7日(木)14:00～15:00
ライブラリとなり (羽曳が丘3丁目5の38)



坂口晴美・三輪恭子・篠原真咲
Mail: sr24816r@st.oumu.ac.jp
大阪公立大学大学院 看護学研究科 在宅看護学

2025年度 となりの保健室
第11回
うんこさん保健室

9月のテーマは、食事です！
みなさんは、最近話題の「シンバイオティクス」をご存知ですか？
そう、腸を元気にする食事の一つです。
シンバイオティクスを取り入れて快便を目指しましょう！

2025.9.19 金
14:00～16:00
場所：ライブラリとなり
(羽曳が丘3丁目5の38)

看護師が行いますよ

◎お申込み（先着10名様）：
FIKA（羽曳が丘3丁目）でのお申込み、もしくは、下記連絡先までご連絡下さい。

POOマスターはびきの
鏡畑麻子・山本初美・小林美恵子・篠原真咲・三輪恭子
hai-nse-yz1221@hotmail.co.jp（山本）
大阪公立大学大学院看護学研究科 在宅看護学

2025年 となりの保健室
睡眠の保健室

心地いい睡眠とさわやかな目覚めで、

「ふとんに入ってもなかなか寝付けない」
「夜中に何度も目が覚めてしまう」
「眠ったはずなのに、朝にぐったり」
そんなことはありませんか？

世界の睡眠研究でいわれる
2025年10月9日 木曜日 14:00～15:00
「スタンフォード大学睡眠生理学研究所」の研究結果から、

☆お申込み（先着10名様）☆
FIKA（羽曳が丘3丁目）もしくは下記メールアドレスにご連絡ください。

企画・実施 中川れい子・三輪恭子・篠原真咲
お問い合わせ Mail su25492k@st.oumu.ac.jp
大阪公立大学大学院 看護学研究科 在宅看護学

となりの保健室
2025年11月5日（水）
14:00～15:00

『からだとあたまのストレッチ』
～いきいきと笑顔で過ごす毎日を～

コグニサイズ
脳活などなど..

みんなで楽しい時間を過ごしませんか？

お申し込み（先着10名様）
FIKA（羽曳が丘）または
下記メールアドレスにご連絡ください。

企画・実施 壺上尚子・三輪恭子・篠原真咲
お問い合わせ Mail su25964s@st.oumu.ac.jp
大阪公立大学大学院 看護学研究科 在宅看護学

2025年度 となりの保健室
第12回
うんこさん保健室

12月のテーマは
『災害時の便秘対策を考えよう！』です
災害時のトイレ事情、ご存知ですか？
便秘にならないための体操やツボ押しを体験しながら、いざという時に備えましょう

2025.12.9 金
14:00～16:00
場所：ライブラリとなり
(羽曳が丘3丁目5の38)

◎お申込み（先着10名様）：
FIKA（羽曳が丘3丁目）でのお申込み、または、下記連絡先までご連絡ください

はびきのPOOマスター
鏡畑麻子・山本初美・小林美恵子・篠原真咲・三輪恭子
hai-nse-yz1221@hotmail.co.jp(山本)
大阪公立大学大学院看護学研究科 在宅看護学

《活動中の写真》



健康教室中の様子



尺八をご披露いただきました



足のマッサージの実施の様子



2025年度メンバーとFIKAの店主さんご夫妻と

* 本年報に掲載している写真は、掲載について承諾を得ています。

看護実践研究センター:国際・国内学術研究推進部門

担当:園田奈央、藤田寿一、清水彩

1. 活動目的

学際研究や国際共同研究を行う研究者の基盤づくりとして、グローバルスタンダードな報告ガイドラインについて理解を深める

2. 活動内容

第1回講演会

日時:2025年8月22日(金)13:30~15:30

テーマ:量的研究の報告ガイドライン(CONSORT)について

演者:実践看護科学領域基礎看護科学分野 看護情報学 森本明子先生

場所:C801 講義室

対象:教員(非常勤含む)

参加者は、58名であった。

第2回講演会

日時:2025年12月26日(金)13:15~14:45

テーマ:質的研究の報告ガイドラインについて

演者:実践看護科学領域 生活支援看護科学分野 地域看護学 都筑千景先生

場所:C801 講義室

対象:教員(非常勤含む)

参加者は、54名であった。

Ⅱ. 看護実践研究センター運営委員会活動

1. 広報活動

2. 会計報告

1. 広報活動

看護実践研究センターの広報活動として、センター開設4年目に当たる令和7年度は、看護生涯学習支援事業のフライヤー作成、配布およびホームページの更新を行った。

1) 看護生涯学習支援事業フライヤー

今年度は、看護生涯学習支援事業のフライヤーを作成した(図①)。掲載内容については、担当教員に確認を依頼し、適宜追加修正した。完成したフライヤーは、ホームページにアップすると共に、実習施設や卒業生・修了生の所属する関連機関、病院、保健所、訪問看護ステーション、社会福祉施設等990施設へ郵送した。

2) ホームページ

本センターの活動を広く周知すべく、各部門で行われる活動内容について紹介した。

<https://www.omu.ac.jp/nurs/institutions/>

図①

Nursing Practice and Research Center
大阪公立大学大学院看護学研究科
看護実践研究センター 人材育成事業

看護職のための教育実践セミナー ● 第1回 「現場で役立つ!いまどきの看護職への関わり方と多重課題への支援」 2025年10月15日(水) 15:00~17:00 講師)看護教育学分野 講師 不引 智央 ● 第2回 「臨床判断能力の育成の最新線!臨床判断モデルとルーブリックの活用」 2025年11月19日(水) 15:00~17:00 講師)看護教育学分野 教授 細田 泰子 ● 第3回 「"やらされ感"から"自分ごと"へ成人学習理論で変わる教え方、学び方」 2025年12月22日(月) 15:00~17:00 講師)看護教育学分野 准教授 勝山 愛	受講料 各回 500円	開催場所 大阪公立大学阿倍野キャンパス 看護学部学舎C棟 (大阪市阿倍野区旭町1-4-3) 対象 近畿圏の医療施設に勤務する 看護職20名程度(先着順)
キャンパス教育およびネットワークの構築 ● Step1 キャンパス教育ファーストエイド講座 ~子どもの急変時初期対応~ 2025年10月12日(日) 9:30~15:00 ● Step2 基調講演&キャンパス教育実践報告 ~キャンパス教育の体験共有など~ 2025年11月16日(日) 9:30~15:00 ● Step3 キャンパス教育アドバンスエイド講座 ~野外活動で必要な応急処置~ 2026年3月1日(日) 9:30~15:00 ● 企画担当 宮下佳代子(子ども家族ケア科学), 仲井あや(小児看護学), 児玉善子(看護教育支援協会)他	受講料 各回 2000円	開催場所 大阪公立大学阿倍野キャンパス 看護学部学舎C棟 (大阪市阿倍野区旭町1-4-3) 対象 20名程度(先着順) *キャンパス教育として地域貢献活動に興味のある看護職 *既にキャンパス教育として活動している看護職 *キャンパス教育を必要としている地域団体
看護師対象の基礎から学ぶ看護研究セミナー(基礎編) 講義・演習形式 ● 第1回 「看護実践に活かす看護研究とは、文献検討とテーマの決定」 2025年10月31日(金) 10:00~16:00 講師)ヒューマンケア科学分野教員 ● 第2回 「看護研究の計画から実施、論文作成まで」 2025年11月21日(金) 10:00~16:00 講師)ヒューマンケア科学分野教員 ● 第3回 「各自の研究計画書の発表とディスカッション及び指導」 2025年12月23日(火) 10:00~16:00 講師)ヒューマンケア科学分野教員	受講料 全3回 3000円	開催場所 大阪公立大学阿倍野キャンパス 看護学部学舎B棟(第1回・第2回) 看護学部学舎C棟10階(第3回) 対象 医療・保健・福祉施設に所属する 看護師 定員10名程度(先着順)
看護師対象の基礎から学ぶ看護研究セミナー(継続編) 講義・演習形式 ※基礎編を受講していない方で受講可能です ● 第1回 「研究デザインの選択、データ収集方法、クリティック」 2025年10月17日(金) 10:00~16:00 講師)ヒューマンケア科学分野教員 ● 第2回 「データ分析方法について」 2025年11月10日(月) 10:00~16:00 講師)ヒューマンケア科学分野教員 ● 第3回 「成果の公表のプロセスと発表の実際」 2025年12月8日(月) 10:00~16:00 講師)ヒューマンケア科学分野教員	受講料 全3回 3000円	開催場所 大阪公立大学阿倍野キャンパス 看護学部学舎C棟9階(第1回) 看護学部学舎C棟10階(第2・3回) 対象 医療・保健・福祉施設に所属する 看護師 定員10名程度(先着順)
家族看護フォーラム ● 「アドバンス・ケア・プランニングにおける家族看護」 2025年11月15日(土) 14:00~16:00 講師)家族支援専門看護師4名 ● 第1部 講義)・家族看護の基礎・アドバンス・ケア・プランニングにおける家族看護 ● 第2部 実践事例紹介	参加費 1000円	開催場所 大阪公立大学阿倍野キャンパス 看護学部学舎C棟 (大阪市阿倍野区旭町1-4-3) 対象 臨床看護師 80名程度(先着順)
精神看護オンラインセミナー 参加費無料 ● 第1回 「当事者のニーズにこたえる精神科訪問看護」2025年9月29日(月) 講師)精神行動ケア科学分野 准教授 河野あゆみ ● 第2回 「セルフケア理論に基づく看護過程の展開」2025年12月22日(月) 講師)精神看護学分野 教授 富川順子 ● 第3回 「医療観察法病棟における社会復帰支援」2026年3月16日(月) 講師)精神看護学分野 助教 塚部千佳子 ● 第4回 「統合失調症をもつ当事者に対する心理教育の基本」2026年6月15日(月) 講師)精神看護学科学分野 教授 松田光信 ZOOMによる双方向型オンラインセミナーです。お申し込み後ZOOMのURLをお送りいたします。	各回13:00~14:30	
思春期にある子どもへの包括的セクシュアリティ教育実践者の育成 [講演会] ● 子どもたちの現状と課題・学校で行われている教育支援の実際 講師)大阪府内中・高等学校に勤務の養護教諭 ● 教師と協働する包括的セクシュアリティ教育の企画から運営までの実例 講師)母性看護・助産学 准教授 古山英穂 ● シンポジウム~包括的セクシュアリティ教育として実践者に求めること~ ● お申し込み (https://www.omu.ac.jp/nurs/center/application/index.html) ● 内容詳細 (https://www.omu.ac.jp/nurs/institutions/training/)	開催日 10月18日 (土) 13:00~15:20 対象 包括的セクシュアリティ教育の実践に 関心のある保健医療福祉の専門家100名程度	開催場所 大阪公立大学阿倍野キャンパス 看護学部学舎C棟801教室 (大阪市阿倍野区旭町1-4-3)

大阪公立大学大学院看護学研究科 看護実践研究センター
mail:gr-nurs-center@omu.ac.jp

文責：看護実践研究センター運営委員会 広報担当 藤田寿一 清水彩 篠原真咲 宮下佳代子

2. 会計報告

(1) 2025年度看護実践研究センター運営委員会の予算執行状況

- A) 予算額：1,527,660円
- B) 執行額：1,527,660円

(2) 2025年度看護生涯学習支援事業の予算執行状況

- A) 配分額：1,041,362円
- B) 受講料収入：248,500円
- A)+B) 合計：1,289,862円
- C) 執行額：1,252,234円
- D) 残額：37,628円

(3) 会計総括

生涯学習支援事業費については、郵送費の削減や補助員として予算を確保していた業務が実際には実施されなかったこと等により残額が生じた。今後、他部門において購入予定の物品等があることから、運営委員会全体としての予算執行額は収支が均衡する見込みである。以上より、予算全体としては予算通りかつ適正な執行であった。

看護実践研究センター 会計担当：田中健太郎 根来佐由美

Ⅲ. CNSネットワーク活動

2025 年度 看護実践センター CNS ネットワーク活動部会

構成員：三輪恭子（委員長）、富川順子、井上敦子、徳岡良恵、中村雅美、佐々木勤美（事務）

I. 2025年度の活動目標

1. 会員への情報発信として、メールマガジンの発刊を行う。
2. 専門看護師（以下 CNS）・プレCNS 会員の CNS活動実践能力の向上と交流促進に役立つ「CNSネットワーク交流会」を開催する。

II. 2025年度活動内容

1. 会員数

2026年 2 月の会員登録数は 141 名であった。

2. 会員への情報発信

修了生への広報、交流会案内チラシ発送、メールマガジン発刊、HP 更新等による会員への情報発信を行った。なお、メールマガジンは会員と看護学部教員を対象に発刊した。

1) 交流会の案内とメールマガジン発刊

2025年は6回のメールマガジンを発刊し（表1）、2025年度CNSネットワーク交流会のチラシ作成と配布、交流会の開催・終了後の情報と、CNS活動に関連するセミナー等の情報発信を行った。

発刊月ごとに各構成員がメールマガジンの作成を担当し、各構成員の挨拶や交流会の案内と報告を中心に、CNS活動に役立つセミナーの案内、2月にはCNS合格者の声などを盛り込み、内容の充実を図った。今後も CNS 活動に活かせる最新情報などを発信することにより、会員にとって役立つメールマガジンとして更なる内容の充実を図ることが課題である。

表 1. 2025年度メールマガジン発刊時期と内容

回数	発刊月	内容
第1回	6月	今年度の挨拶、CNS ネットワーク活動企画案内、第1回交流会の案内
第2回	8月	第1回交流会の報告、第2回交流会の案内
第3回	10月	第2回交流会の報告、第3回交流会の案内
第4回	1月	第4回交流会の報告、第5回交流会の案内
第5回	2月	第5回交流会の報告 今年度CNS認定審査の合格者の声
第6回	3月	今年度の振り返り

2) ホームページによる情報発信と交流

大阪公立大学大学院看護学研究科のCNSネットワークのホームページにて、交流会案内などの広報活動を行った。

3) 教員・修了生へのCNSネットワーク広報用チラシの配布

年に1回、3月に修了生対象に、CNSネットワーク広報用チラシの配布（図2）を行った。

大阪公立大学

7月19日(土) WEB 10時～11時30分
組織内・外における専門看護師・認定看護師とのコラボレーション
組織内・外において専門看護師や認定看護師とどのようにコラボレーションを行っているかや、コラボレーションにおける課題等をディスカッションにより検討する
【担当】がん看護CNS 徳岡良恵

9月13日(土) WEB 10時～12時
精神看護専門看護師が行う看護師のメンタルヘルス支援
メンタルヘルスの問題で専門看護師に相談に来る看護師へのカウンセリングの動向を見ながら、専門看護師として行うメンタルヘルス支援について意見交換を行う
【担当】精神看護CNS 富川順子

2025年度 CNSネットワーク交流会

対面 10月18日(土) 10時～12時
場所:阿倍野キャンパス
組織・地域を変革する！～関係者を同じ船に乗せるには？
組織や地域において、関係者と協力関係を築き、同じ目標に向かう仲間を作るための方策について意見交換を行う
【担当】地域看護CNS 三輪恭子

1月31日(土) WEB 10時～11時30分
看護管理者と協働したCNS活動
CNSからの話題提供後、管理者と協働したCNS活動について意見交換する
【担当】慢性疾患看護CNS 中村雅美

12月13日(土) WEB 10時～11時30分
CNSの院内教育活動
所属施設内における教育活動の現状や課題、実施するうえで工夫等について、情報共有・意見交換を行う
【担当】家族支援CNS 井上敦子

右記QRコード、または下記ホームページよりお申込みください
CNSネットワーク <https://www.omu.ac.jp/nurs/cns/>
大阪公立大学大学院看護学研究科 看護実践研究センター CNSネットワーク活動部会

図1. 2025年度CNSネットワーク交流会案内

大阪公立大学 Osaka Metropolitan University

CNS ネットワーク

交流会
掲示板
メールマガジン

先達も後達も みんな一緒に

つながる 学ぶ スキルアップ

登録者募集!!

カンタン！

STEP1 QRコードでアクセス
STEP2 登録事項を入力し送信するだけ

●QRコードまたはURLよりお申込みください URL: <https://www.omu.ac.jp/nurs/cns/>
プレCNS・大学院生も大歓迎!!

大阪公立大学大学院看護学研究科 CNSネットワーク活動部会

図2. CNSネットワーク広報用チラシ

III. 交流会の開催

1. 2025年度交流会の概要

2025年度も、CNS 会員の能力開発に役立てることができ、会員同士の交流が促進することを旨とした交流会を開催した。各構成員が、CNS活動に役立つテーマの交流会を企画し、オンライン（Zoom）または対面で開催した（表2）。対象は、本学修了生以外のCNSやプレCNSにも広げて実施した。

表2. 2025年度交流会の概要

	交流会のテーマ	担当	日時	方法
1	組織内・外における専門看護師との コラボレーション	徳岡	7月19日（土） 10:00～11:30	オンライン
2	精神看護専門看護師が行う 看護師のメンタルヘルス支援	富川	9月13日（土） 10:00～12:00	オンライン
3	組織・地域を変革する ～関係者を同じ船に乗せるには？	三輪	10月18日（土） 10:00～12:00	対面 (阿倍野キャンパス)
4	CNSの院内教育活動	井上	12月14日（土） 10:00～11:30	オンライン
5	看護管理者と協働したCNS活動	中村	1月31日（土） 10:00～11:30	オンライン

2. 各回交流会の報告

各回の参加者数とアンケート概要から、意見交換できた、参加して良かった、今後の自分の活動に役立つと答えた人数を表3に示す。

表3. 交流会のテーマ、参加者数とアンケート結果

単位（人）

	交流会のテーマ	参加者数	アンケート 回収数	意見交換 できた	良かった	役立つ
1	コラボレーション	13	6	6	6	6
2	メンタルヘルス支援	18	10	10	10	10
3	組織・地域の変革	16	16	16	16	16
4	院内教育活動	19	11	11	11	11
5	管理者との協働	15	10	9	10	10

1) 第1回：組織内・外における専門看護師とのコラボレーション

- ・CNS歴の違う家族支援CNSのお二人から、具体的なご指導をいただくことができ、CNSの活動がイメージできました。その後のディスカッションでも、様々な分野や立場の先輩方の工夫や困りごとを伺うことができ、よりイメージが深まりました。貴重なお時間をありがとうございました。
- ・新たな場所で関係を築きながら、教育や家族看護のニーズを捉え少しずつ取り組んでいくことや、時間的な制約があるなかで、興味や関心がある方には自己学習を働きかけられるような工夫を知ることができました。
- ・今の所属部署の教育は管理者が全て担っています。自分はCNSとして、今後はどんな事ができるだろうかと考えながら、聞く事ができました。取り組みの始め方。ニーズや、理念、コミュニケーションを大事にしていくことなど、大事な要素をたくさん学べました。ありがとうございました。

5) 第5回：看護管理者と協働したCNS活動

担当：中村雅美

参加者：25名

内容

- ・慢性疾患看護専門看護師（大阪府済生会泉尾病院 西川沙織氏）から話題提供。
- ・グループに分かれ、看護管理者との協働の実際を共有し、悩みや課題、工夫点、大切にしていることなどを話し合った。

参加者の反応

- ・高度実践家としてのあり方さえもつかめていない状況のなかで、先輩方から「管理者とのかわり方」を学ばせていただいたことで、漠然としていたイメージの抽象度が下がったように感じる。数値で表しにくいCNS活動の成果のアピールは難しいが、「専門看護師とは何か」を言語化できるように、自分のなかに落とし込んでいきたい。
- ・それぞれが葛藤しながらも試行錯誤してCNSとして活動されているのを聞き、励みになった。

IV. まとめ

今年度の交流会も、本学修了生以外の参加も多く、活発な交流ができた。オンライン開催により全国からの参加があり、参加しやすさという点でよかった。一方で、対面開催も多数の参加者があり、リアルに出会うことで名刺交換ができ、ディスカッションがしやすいといった点で、より活発な交流ができた。オンライン・対面とも、知識・技術のブラッシュアップやモチベーションの向上につながったという感想があり、CNS活動を支援する場の提供となった。さらに、大学院生やプレCNSにとっても、より実践的な学びの機会となっていた。今後も、より参加者のニーズに合った交流会を行っていくために、今後の医療の動向をふまえたテーマの選定や、開催方法の検討をしていきたい。

また、次年度も、メールマガジンの発刊、交流会企画を中心にした活動を継続する。

大阪公立大学大学院看護学研究科 看護実践研究センター規程

令和4年4月1日

規程第116号

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪公立大学大学院看護学研究科規程第12条第1項の規定に基づき、地元創成を目指す看護の研究・教育・実践を推進し、地元の看護の発展及び人びとの健康と生活の質向上に寄与するとともに、国際的学術拠点として国際的な学術研究活動を促進するため、大阪公立大学大学院看護学研究科看護実践研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(業務)

第2条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 研究支援に関すること。
- (2) 地域貢献に関すること。
- (3) 人材育成に関すること。
- (4) 学術研究に関すること。
- (5) その他センターに関し必要なこと。

(運営)

第3条 センターの円滑な運営を図るため、大阪公立大学大学院看護学研究科看護実践研究センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会に関する事項は別に定める。

(組織)

第4条 センターに所長、主任、副主任及び研究員を置く。また、共同研究等を行うために学外研究員を置くことができる。

- 2 所長は、看護学研究科長（以下「研究科長」という。）をもって充てる。
- 3 主任及び副主任は、看護学研究科教授会の構成員の中から、研究科長が任命する。
- 4 研究員は、看護学研究科教員の中から、委員会の推薦に基づき研究科長が任命する。
- 5 学外研究員は、委員会の推薦に基づき研究科長が委嘱する。

(所長)

第5条 所長は、センターの業務を統括する。

- 2 主任は、センターにおける研究・教育に関する業務を行うとともに、所長を補佐し、所長に事故があるときは、その職務を代行する。

3 副主任は、センターにおける研究・教育に関する業務を行うとともに、主任を補佐する。

(任期)

第6条 主任及び副主任の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

2 研究員の任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。

3 学外研究員の任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

大阪公立大学大学院看護学研究科 看護実践研究センター運営委員会規程

令和4年4月1日

規程第23号

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪公立大学大学院看護学研究科看護実践研究センター規程第3条第1項の規定に基づき、大阪公立大学大学院看護学研究科看護実践研究センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 事業計画に関すること。
- (2) 予算に関すること。
- (3) その他、看護実践研究センターの管理運営に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 看護実践研究センター所長
- (2) 看護実践研究センター主任
- (3) 看護実践研究センター副主任 3名（看護生涯学習支援部門、府民健康支援部門、国際学術研究推進部門の各部門責任者を兼務）
- (4) 研究科教授会が選出した看護学研究科の教員 9名（看護生涯学習支援部門、府民健康支援部門、国際・国内学術研究推進部門の各部門に3名ずつ配置）
- (5) 前各号に掲げる者のほか、委員会が必要と認める者

2 前項の委員は所長が任命する。

(任期)

第4条 前条第1項第4号及び第5号の委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、看護実践研究センター主任をもって充てる。
- 3 委員長は、委員会の議長となる。
- 4 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、看護実践研究センター副主任が

その職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し会議を掌理する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

第7条 委員長は必要あると認めるときは、委員会に学識経験者等委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

編集後記

2022年4月に大阪公立大学が開学し、4年目を迎えた看護実践研究センターでは、今まで地域貢献や研究支援、人材育成や国際学術研究等に関する事業を行ってまいりました。今後も地域社会における大学の役割を果たすべく、多様な活動を推進致します。ご多忙な中、年報第4巻の発刊にご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

看護実践研究センター 年報担当 小西 円 古山 美穂

大阪公立大学大学院看護学研究科
看護実践研究センター年報
第4巻
2026年3月発行